

(一)

特106

898

腦

症弱衰經神



圖之經神髓脊腦



始

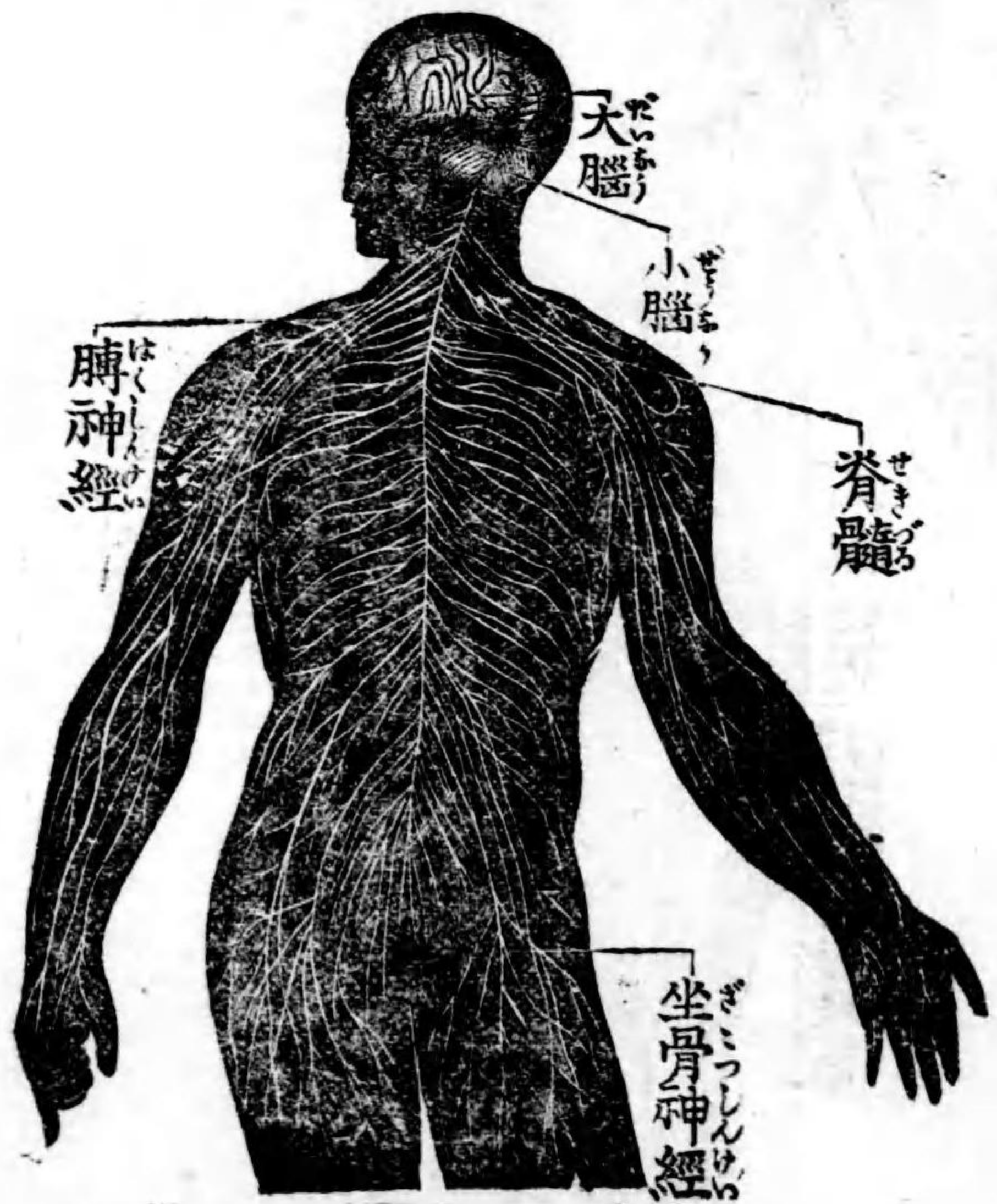


持106
898

(一)

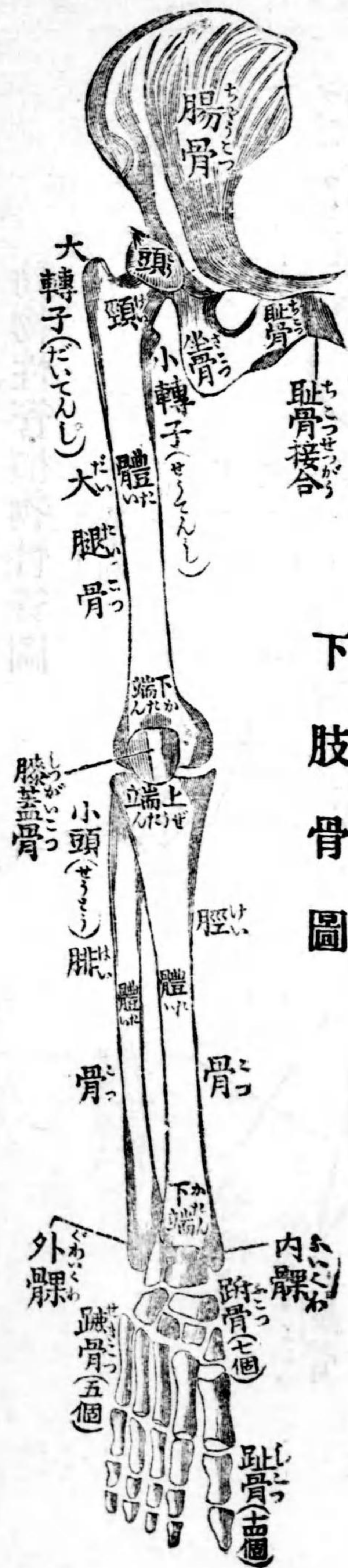
腦

症弱衰經神

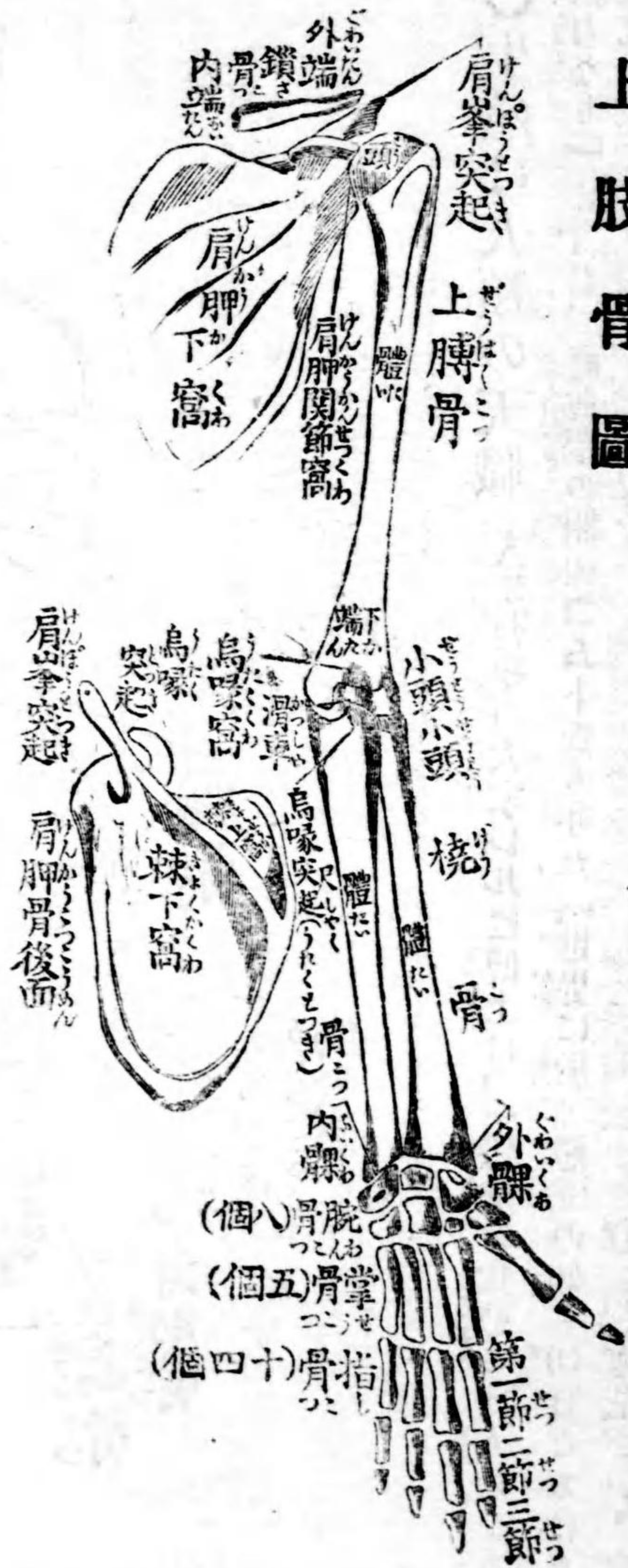


圖之經神髓脊腦

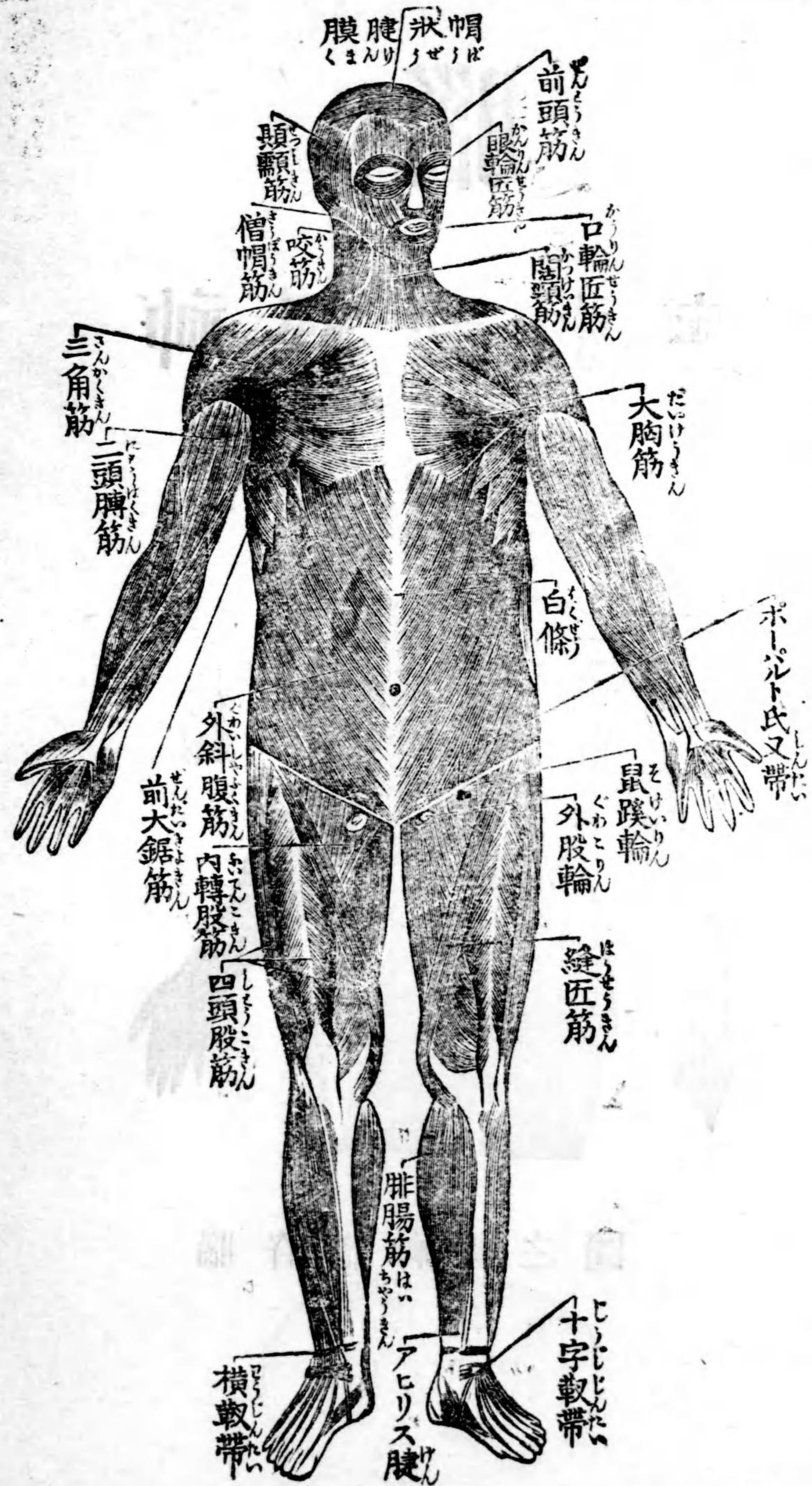
大正
2. 10. 14
內交



下肢骨圖

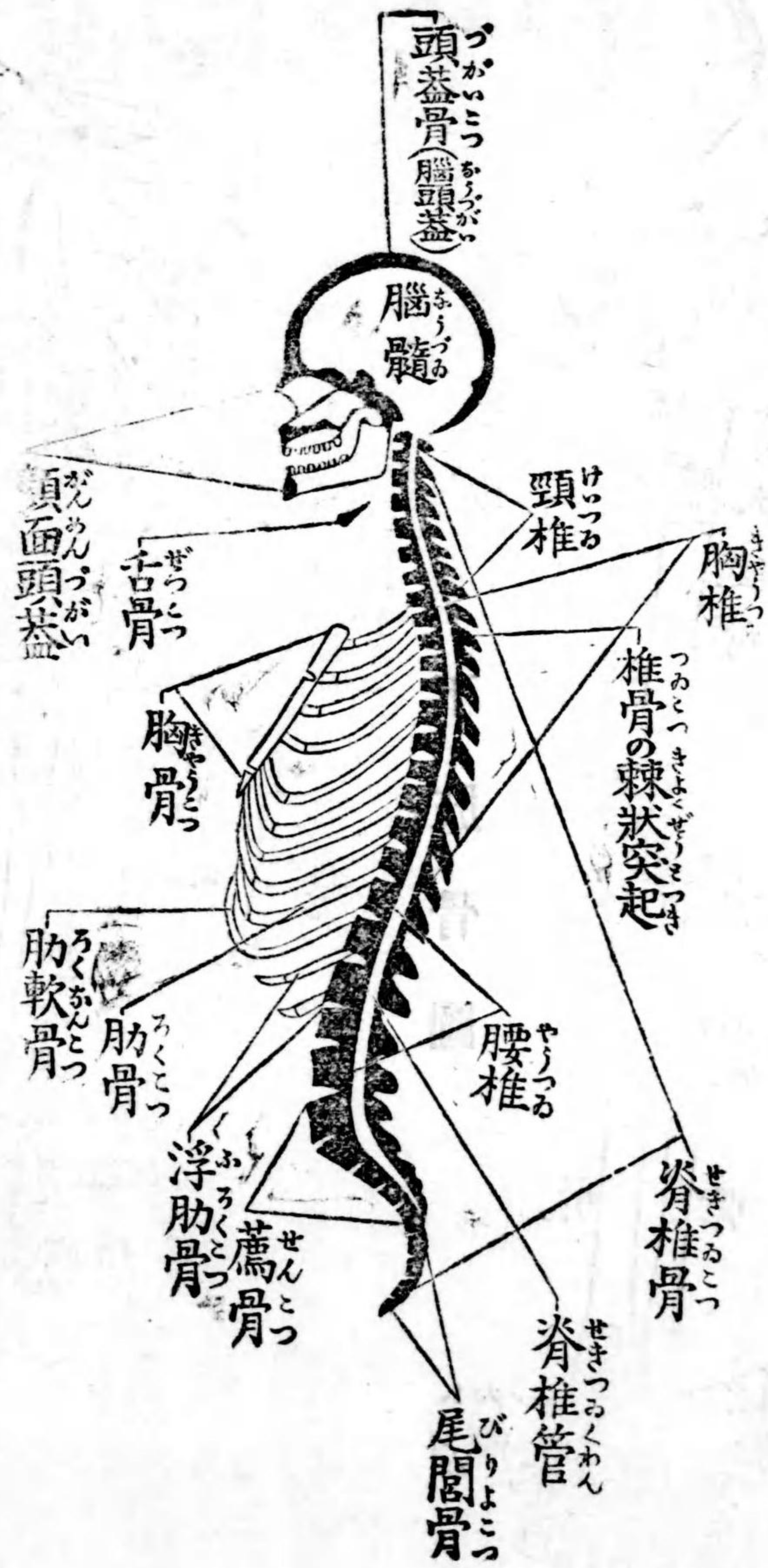


上肢骨圖



人體筋肉組織圖

動物性管植物性管圖



○生殖は人類の天職 人生哲學の大家レルヒ博士は、「戀愛と食欲とは人類を支配する二大動力なり」と言ひ、社會學の開祖コムト氏も亦た「世界に於て戀愛の如く切實なるはなし、吾人は何物に對しても嫌惡の情を禁じ得ざれど戀愛のみは然らず」云々。更に又聖書にも、神は人を造り

之を男女の兩性に區別し給へり、神彼等を祝福して言ひ給ひけるは「生めよ殖えよ、地に満てよ」とあります、若し戀愛其の物が果して神聖なるものとすれば、正當なる性交も亦た神聖なる物と云はねばなりません。ところが戀愛と云へば美しく聞えるけれども交接とか房事とか云ふと下卑に聞える。然し歸着する所は同一で、色情の伴はぬ戀愛はない。色情の背景があつて始めて男女の愛情が生ずるのです。之を専門的に言へば、戀愛の目的は男子の生殖器に産する精子細胞(子胤)と、女子の生殖器に産する卵細胞とを結合せしめ、種屬蕃殖の爲に營むにあるのです。又近世進化論者の説によれば、色情は生殖を遂げんが爲に男女兩性間に起る特殊の作用であつて、極めて眞面目なるものである。又交接は受精の方便にして兩性の間に行はるゝ發作に外ならざれば、毫末も之を不潔とする理由はないと云ふのです。

更に人類の要求する最大娛樂は何であるかと云ふに、色氣と食氣、殊に色慾の満足を求むる事は、如何に聖人君子と雖も否定する事は出来ませぬ。食物が無ければ餓死するし、生殖を營まぬければ子孫は絶え、種屬は亡びて了ふ。そこで造物主は之を調理せんが爲に、色情を與へて優良なる子孫を蕃殖せしめ、人類の向上進歩を計らうといふ天意が、即ち男女の色情となつて現はれたのである。而して總ての動物は、蕃殖力が盛んなる間は精力も亦た旺盛で、他の動物を征服する事が出来る。然れ共一朝蕃殖力が衰退すると共に他の動物から壓迫されて了ふ。人間もそれと同じく、生殖力の盛んなる時は活動を怠らぬが、此の力が衰へると同時に俄に意氣地が無くなつて了ふ。古來英雄色を好むといふのは、即ち體力精力共に絶倫であるが爲です ▲生殖器病と人口

問題▼男女の生殖行為が、如何に種蕃殖の爲だと云ても、若し之に伴ふ快感が無かつたならば、何人も進んで行ふ者は無い。すると自然人類が滅亡してしまふから、神は此の生殖作用を促進せしめんが爲に、交接によつて起る快感を與へられたものである。故に男女とも青年期に入ると、他人が教へないでも自ら發情して、本能慾を満たさんとするのです。然るに若し生殖器に故障があつて、天賦の最大快樂を完全に行ふ事が出来なくなつたならば、人間と生れてこれ程不幸な事はありませぬ。單に一個人の災禍だけに止まらず、生殖器の障害は出産率の減少となり、人口の減少は國家の衰退となるから實に由々しき大問題です。生司院各診察所東京、大阪、神戸、名古屋の六ヶ院に於て十八年來の系統調査に因ば近來青年男女の間に生殖器障害者が年々増加して、十年前に百分の十五人位の患者が、現今では百分の三十五人といふ割合に上つてゐる。之が原因は生活難の結果、男女とも婚期が遅れる爲に、不自然なる自己遂情（即ち手淫）を行ふとか、又は男子なら賤業婦に近づくとか、野合をすることかして、兎角不正なる方法の下に行ふから遂に男女とも生殖器障害を起して、天與の快樂を遂行する事が出来なくなるので醫學者は之を青春病と名けてゐます。其の結果個人としては子實を得られず、國家としては人口を減少するといふに至つては實に絶大の損害です。此の趨勢は我日本ばかりでなく、世界の文明國と稱する佛國の如きは特に甚だしいやうです。獨佛戰爭の當時、兩國とも四千萬の人口であつたのが、今や獨逸は六千萬以上増加してゐるのに、佛國は三千九百萬人に減少してゐる、人口の上だけでも既に對等の戰爭は出来ません。而して繁殖率の少ない國ほど衰運に傾いて行くのは事實上明かな事である

是等は即ち多くの青年男女が生殖器障害の爲に生産力を失つた結果です。故に此の怖るべき國家的疾患、即ち生殖器病者を救濟せんとするには、先づ男女兩性の色慾といふ事を研究する必要があると云ふ。▲生殖本位の色情及快感▼男女兩性の差は生殖器構造の異點と生殖作用を營む際に、兩性の生殖器に起る現象の差を一見すれば明かです。然らば男女何れが交接を多く好むかといふに、之を一口に申せば女子は生殖の爲に交接を行ひ、男子は色情の爲に房事を行ふのです。婦人は天賦の性として常に「子供が欲しい」といふ觀念が強く、色慾の發動する場合にも生殖の目的で交接する傾きが多い。之に反して男子は單に一時の色情を満足せしめんが爲に行ふ者が多い。獨逸のアルベルト博士の説に「女子は子孫生殖の主任者で、男子は之が補助者たる位置にある。されば不妊症の婦人が往々それを苦慮して發狂するが如きも、女子の色慾が唯だ快樂の充實に止まらずして生殖を基礎とする爲である」と云つてゐます。

○女子の色慾と色情狂 女子の色慾及び交接の際に起る快感感覺の程度は、婦人の天性が受動的であるだけ、實際の事實を告白する者が稀なので、正確な所は判らぬが、英國の性慾學者は女子の色慾に就て左の三種に分類して居ります、第一**燥狂性色情**、第二**他愛的色情**、第三**利己的色情**、婦人には素より出歯龜式の殺人犯まで爲して情慾を満そうと云ふ猛烈な者はないが、然し多淫な女子には一度色慾が昂じて來ると、居ても起つても氣が落付かず、我身で我身を制し難く、遂に發狂して了ふのがあります、(色情狂即ち是なり)此の燥狂性色情の婦人は、多くは既に男子の味を知つた者で、處女には滅多にありません。(初春期に一時性に感發する者は精神の鎮靜に依て

治す) 此種の色慾狂は男子に接して色慾を満しさへすれば、忘れたやうに治るものです。彼の老嫗や若き未亡人が、ヒステリー症や神経衰弱症に罹るのには、總て男子との間に充分色慾を満たす事が出来ぬからでです。而して此の種の婦人が十中七八までは不自然なる人工淫情(手淫)の爲に、生殖障害を起してゐます。

○交接嚴禁の害

男女とも生殖力の最も旺盛になるのは二十二歳より二十五歳位の間に過ぎが、この間に勃發する色慾は抑へ切れぬ事はなく、又交接せずにも、格別身體に障るやうな事はない。けれども男女二十五歳以上になつて、尙ほ勃々たる色慾を絶對に制止してゐると身體にも精神にも變調を來して往々女子にはヒステリー症、男子は神経衰弱症を起します。それは如何なる故かと云ふに、獨逸の生理學者フロイド氏の説によれば、青春期に達した男女は、生殖器に刺戟を受けると恰も水に電流を通じたるが如く、身體の組織に分解作用が起り、セキソトキシンといふ毒素を遊離する事になるので、之が多く体内に溜ると、血液が濁濁して全身に不快を感じ、しめるやうになる事です。それ故生殖作用の發達した男女は一週間に一回乃至二回は、正當なる交接に依り、セキソトキシンなる性毒を體外に排泄する必要があるのである。その證據に男子でも女子でも、適度の交接を行つた後は何となく氣がハキハキする。而して快き眠からでも醒めた時のやうに、全身に爽快を覺えるのは、即ち神経系を胃す毒素のセキソトキシンが、體外に排泄せられて了ふからでです。されば男子とも相當の年齢に達したら、結婚をして家庭を持ち夫婦の娛しき情味を交すのが人間天賦の約束です。

○然に近來生活難に伴ひ、意の如く結婚して、生殖行為を營む事が出来難くなつた爲に男子は賣春婦に近づくとか、又は不自然なる人工淫情、即ち手淫に依つて色慾を洩し、女子は淫賣夫といふのが無いので一層多く手淫の惡癖に陥り、其結果生殖器障害を惹起して、完全なる男女の交際を行ふ事が出来ず、一生の快樂を奪はれる事になるのです。

●遺精症

○名義 本症は構接に關係なく生殖器分泌液の安眠中不隨意的に漏出する者を遺精症と云ふ

○病理原因及症候 本病の頻繁なる原因は房事過度、手淫濫行、腦の過用等にあり亦、尿道炎、淋疾、包莖、寄生蟲、痔疾、肛門裂傷、情慾興奮、睡眠中膀胱緊満、腸管充實、膀胱結石、等に由る反射的刺戟の爲に本病を發す、將た中樞神経系統の疾患例令は腦脊髄神經、脊髄の初起或は脊髄炎、神経衰弱男性「比ト昆垚里」其他生殖機能に關する軽度の精神的興奮及び癲癇發作等に當り本病を來す事あり諸般の衰弱狀態も亦本病の原因となる例令は腸窒扶斯の恢復期、肺勞、及び糖尿病に於けるが如き是也、精神的素因を有する家族より遺傳する事あり、又居常、精神過勞、腦病、亞爾箇保兒、茶、煙草等の濫用に由り神經質を帯びたる人体は他に證明すべき原因なくして本症に罹る者多數あり

○遺精 是其初め恰も夢精の如く時々漏精するに過ぎざるも漸次病勢の増進し來るや、身體の衰

弱と共に其の健康は全く損はれ、四肢倦怠を覺へ、手足に震頭を來し、耳鳴、頭痛を起して、更に重き**脳神經衰弱**を惹起するに至る尙病勢の甚しき者に至りては、何等の快美感覺及び勃起を來する事なく又便事を爲す際或は車馬に乗る時、衣服夜具の觸擦、壓迫、悲哀、痛心、重量の物品を所持する等些たる事にも直ちに精液漏出し、更に一層甚しきに及びては風の戦ぎ冷氣の襲ふにも漏精を來たすに至る。如斯極度に達せば如何なる醫藥如何なる療法も到底其の効無き者なれば、其の生殖機能に及ぼす影響は想像するに餘ありて精液の妊娠せしむべき活力なきは勿論の事にして病勢の劇進する者は絶對的に交接を營爲する事能ざるの不幸に陥るなり

○**症候** 遺精は尿道より翠丸分泌液の睡眠中不隨意的に漏出を來す症にして之の液を顯微鏡下に檢すれば多數の精蟲を證明す、時として其精蟲の一部分は發育不全の狀を呈し其頭部より細小なる線條の懸垂するを認め、又運動の緩慢なる事往々之あり尿中に多量の精液を混する時は其尿は乳汁様脂肪狀の觀を呈す之を**脂肪尿**と云ふ

○**不隨意的精液漏出は夜間睡眠中に於て多く發し之を遺精症と稱す**此際快夢に由りて陰莖を勃起せしめ特異の感覺によりて多量の精液を漏出す、最初の頃は遺精後醒覺するや精神に不快の念感あると雖も、其後少しも不快の症狀を遺す事なく却て精神の爽快を覺ゆる事あり此種の遺精は各人に依りて其反復の頻疎を異にす即ち四週乃至八週毎に來り或は五日乃至十日毎に發す又強頻なる者は夜々睡眠中精液を漏洩し遂に**神經衰弱症**を惹起するに到る者なり

○**病的夜間遺精** は患者毎夜一回乃至數回陰莖の不完全なる勃起或は全く勃起せず又は快夢結ばずして精液を漏出する者なり、而して遺精に際し醒覺せず或は遺精後身体の疲勞を感じ頭痛、眩暈、心悸亢進、胸内苦悶、肺部倦怠、等を來す

○**疾病の強度なる者に在ては晝間醒覺する時に於て遺精す之を晝間遺精症と稱す**即ち輕度の生殖器興奮例之猥褻の書畫を弄し、又は婦人に接近し若くは之れを瞥見するに由り、或は想婦と快事を貪るを思ひ直に精液漏出を來す、其の度尙ほ甚だしきに至れば遂に**持久性遺精症**に陥る、此際快味を覺えずして絶へず精液を尿道より漏出す、又**排尿遺精**及び**便通遺精**を先驅する事あり是れ**排尿**及び**排便**時に精液を漏出する者なり

○**本病は患者に精神の障害を及ぼし患者の神經亢奮性を有する時は其度益々顯著となる、殊に記すべきは患者は自己の將來に大なる恐怖を抱くも房事、或は手淫の快樂を廢する能はざる事なり、本病患者は久時健康状態を保つ事を得べしと雖も漸々顔面蒼白色を呈し羸瘦し睡眠不安となり遂に精神病者に陥る者世間其類多し**

○**豫後及療法** 原因に由て異なり第一に手淫及び房事を制限し其の他刺戟状態例之、淋疾、包莖、腸寄生蟲、痔疾等より發する者は其の原因療法を爲すべし、必要なるは生活状態なり晚餐は淡白なる物を選び食後三時間以上を經過するにあらざれば就褥すべからず臥床は其の敷布團を厚く緊張し被衾を軽くし而して側臥位を取りて就眠せらるべし、然して患者の身體を強壯ならしむるため、冷水摩擦法、冷水浴法等を勵行せしめ、又運動と休息を正規に爲し海岸或は山間に居住せしむるを良とす▲但し本書の生殖器病患者攝生法の項目を熟讀實行すべし

●夢 精 症

○症兆 少年の徒春情病動の期に至て妻を娶らず婦人と交伴を同ふする事能はざる男子は夜間睡眠中艶夢を結ぶに依りて精液を漏洩する事有之を夢精症と云ふ殊に包莖者に多し、又夜間艶夢を結ぶにあらす又勃起する事無くして漏精し加之晝間にも亦之を發する事あり然る者にありては乗車、騎馬の際自轉車乗或は排尿又は上圖の努責によりて精液を漏洩する事あり、是れ眞の病的遺精症とす、其の漏洩する處の精液は多くは稀薄水様にして之を檢微鏡下に照見する時は精蟲の數甚だ少く發育極めて弱し其體は圓形にして尾を具へず運動も亦活發ならず

○原因 第一腦の疾病、第二脊髓の疾病、第三神經衰弱、第四生殖器の發育完全せざるに手淫或は房事を過度に行ひし者、第五暴食暴飲、第六過度の心勞及び過度の勞働に依て身體の疲勞を極る時、第七異常過劇の心悶苦慮等の諸原に依て發する事屢々あり依て左に之を解説すべし

第一 腦は全身中樞要の機關にして高等なる精神機能及び總ての神經を主宰する都府也故に腦に障害あり例令ば貧血或は疲勞又は過劇の心悶苦慮等に因する神經刺戟の反射的作用により夢精を發する者也

第二 脊髓神經は重にも頸部以下を主宰する神經にして若し此の神經の疲勞過度に失する時は衰弱を來し反對に知覺過敏となりて安眠中色情の夢を見て精液を漏洩す是を夢精症と云ふ

第三 神經衰弱は諸般の疾病に因り神經の衰弱したる者なり例へば腦脊髓の疾病に因り又は血行機或は呼吸器の障害等の爲め貧血を起し充分身體の滋養を供給する事能はざる時の如し凡て神經衰弱

症なる者は神經機能を過敏ならしめ因て微細の刺戟と雖も過劇に感するが故に神經作用は反射的に亢奮し嬉怒哀樂は少しの事にも色情を早感し自制力乏しく淫情を催せば手淫を亂行し倍々病勢を助長せしむるに至る其他精神を過度に使用する人及び腺病體質の人は神經衰弱症を來し易し俗間神經質とは此症を云ふ是れ夢精或は遺精を來すの原因なり ▲本書次項の神經衰弱症の題下を熟讀すべし

第四 生殖器の發育完備せざるに手淫或は房事を過度に行ふ時は習慣性となり精液亂出症を來招する者也

第五 暴食暴飲とは一定時或は不時に諸種の飲食物を過多に食するを云ふ

第六 精神の疲勞、身體の疲勞は僅かの刺戟若くは精神感動に依りても夢精を來す者なり

第七 慢性痲疾に罹り膀胱炎を續發し爲に精囊孔の痲痺を來し又は睪丸炎を起し該症に變ずる事あり(梅毒も將た關係あり)以上病原の外胃腸の衰弱症より遺精、夢精を發する事多々此れ在なり

▲男子過淫の障害症及病理原因兆候説明 抑も吾人身體の健康を保全し智能の能く發達するは全く血液の助けなり此故に血液を減少し若くは循環する血液を故障する事あれば健康の力破れ智能衰ふるなり、腦及び神經の滋養分にして、興奮強壯主要成分とも云ふべき物はスベルミン、蛋白質、磷酸鹽類、等なり、然るに精液中には此の重要な三主成分の多量を含有するを以て、今若し房事又は手淫を亂行して頻々多量の精液を排出せんか、自ら此等の諸成分を奪取せらるゝの結果は、腦及び其の精神は健康を保持する能はざるや論なく、故に之が補給の爲めには純良なる血液の多量を要す、實に一滴の精液を製化せんには、吾人の生理作用上四十滴の血液を消費

す。斯くの如く身体の諸養分を亂費するの結果は、焉んぞ能く其の健康を持続するを得べき、況んや交接を遂行するが爲めには精神及び身体を過勞すること吾人の夙に識れるが如し、此の兩様の精力消耗は猛然として其の健康に障害を及ぼし、即ち過淫なる者に來れる健康傷害の状態は全身異常に衰弱し、腦及び神經の衰弱は恰も憂鬱症の如く、時に或は反射性の昂奮に依り過敏を來し精神病者の如く、記憶力は減耗し判斷力欠乏し、心悸亢進して呼吸促進を來し、消化不良、皮膚蒼白、歩行困難、運動障礙を起し、遂に病床に呻吟するに至る、尙ほ病的症狀としては、憂鬱症、低脳症、色情狂、心臟病、消化機病、視力障害(近視夜盲)、衰弱症、遺尿病、脊髄炎、脊髄癆、腦脊髄散在性硬化、進行性麻痺、生殖機能障礙(陰萎、遺精、早漏)等を招來す以上の如き病的疾患に陥いるのみならず、之を生殖作用の上より觀るに斯る状態の下に在りて、尙ほ且つ受胎妊娠せしむるが如き事あるも、其の生兒は著しく柔弱にして用に堪へず、或は畸形兒なる事あり、白痴なる者ある等、其の害は一身一個に止らずして、之を子孫に及し國家社會を蠱毒するに至る、過淫の害や實に斯の如しとすれば恐れて且慎む所なくして可ならむや

▲交接の制限 古代に在りては法律若くは戒律を以て交接の度數制限せるものありしを見る。波斯のツオス、アステルは女子健全にして他に故障なくば毎九日に一回、希臘のソロンは一ヶ月間に一回ムハメツロは一週間に一回の交接を許可せり。尙宗教上月經時の婦女に接するを嚴戒したるもの、或は彼のユトピヤに於いて見る交接の制限の如き等皆荒淫亂行を制して其の機能を全からしめんと欲したるものに外ならず。

▲女子過淫の障害症及病理原因兆說候明 女子過淫の害も亦男子に於ると同じく、恐るべき種々の危害を及ぼす者なり身体の興奮刺戟に依る精神の衰弱は、男子に於て見るが如く甚しき生理的大變化を來さざるも同時に女子は亦頗る恐るべき或る生理的の制裁あり、此の危害たるや男子の害惡と敢て譲らず、直に以て生命網に肉迫する者にして、是れが爲めに命脈を失ふは決して稀有なりとせず、月經及び妊娠中に於ける交接即ち是れ也。彼のモセスが宗教上之を嚴禁せしは眞に故ある事にして、今尙ほ此の如き劣等なる行爲を爲す者少なからざるは嘆すべきの至りと云ふ可く、若し月經間に房事を行はざり、著るしき血行循環障害を來し、妊娠中に之れを行はざり、早産を招き、産時之を行はざり、充血炎症を發し、且つ分娩後日ならずして更に妊娠せる者は流産若くは尙ほ不良なる結果を生ず、哺乳期の間に月經來潮すること早きに失すれば生殖器の復舊障害せられ、或は乳汁の分泌減じ若くは全く廢絶す、又月經再び來らざるも能く孕む事あれどもこは概して稀なり。此他過淫の害は陰門炎、腫加答兒、子宮炎、卵巢炎、等の幾多生殖器疾患を惹起し、之れが爲に終に組織變化を來して不妊症に陥らしむる者多く將又全身に來る腦、神經、消化器系、血行器系、等の傷害に至ては男子に於けると均しく故に深く顧念して、一時の忘念劣情に驅られて人生の義務生殖の何たるを忘れ其の身を傷ひ、命脈を奪るゝが如き禍害を招く事勿れ

▲過淫の防遏法及注意 交件を催起するは腦の作用にして之を抑制すべき作用も亦腦の支配に存す故に淫情を抑制し、劣情を消滅せしめんと欲せば、先づ腦を健全ならしむべし、若し病的

過淫に陥れる者或は色慾を亢奮せしむべき病的原因ある者は、抑淫劑、鎮靜藥を服用する等醫藥を受くべきは勿論なるも、健康体にして色情の發動旺盛なる者、或は淫欲の調節適度を得んと欲する者は、何等かの精神的信仰を固持するを可なりとす、其の信念たるや必ずしも宗教と云はず、倫理と限らざれども、向上念を抱懐するは人をして道徳的ならしむる者にして、外に戀情動きて色欲切りに燃ゆると雖も、内に確固たる鐵石の心腸あらば、決して罪惡禍害の誘惑に陥るべき者にあらず或は自己の課業職務に熱中する者も亦之を避け得べく、餘暇には高潔なる讀書、娛樂、運動等を行ひて、常に身心の保護に努むるも亦効果あり、冷水浴、皮膚の冷水摩擦も亦有力なる抑淫法なり、夫婦間に在りては同衾を戒しむべし是れ同衾は夫婦をして不知不識の間に相接近せしめ、要之古聖の小人閑居して不善を爲すと云ひしが如く、暖衣飽食して安樂遊逸に流るる者は、自ら邪念を萌さずを以て、此の如き状態は努めて回避せざる可らず、尙後段手淫の害を參照熟讀すべし

◎男子手淫の障害症

▲病理症状及原因 男子手淫の害は、房事過淫の害に於けると均しく、精液の漏出に依りて身体の主要成分を排泄せらるるが故に、腦神經及び全身の營養に著しき障害を與ふるのみならず其の自遂(妄想的)刺戟は腦神經を傷害し、又發育中にある生殖器を害するを以て、其の發育は阻礙せられて種々の畸形(陰莖失小、彎曲等及び機能障害、陰萎、遺精、早漏、睪丸の組織變化)等

を招來するものにして、生殖作用を斷絶せられ人生の幸福を享受する能はざるに至るも青年活氣の期に在りて情欲熾んに勃興し之を抑制するに道なく終に害惡なるを知りつゝも亂行して人生の最も肝要なる生殖機能を害し爲に諸種の病性を惹き起し全く贅物を所有すると一般其効用を偏失し身体虛弱に陥り盤根錯節を處斷するの活氣を消盡して大業を遂ぐる能はざるの不幸を見るに至る豈恐れざるべけんや、尙手淫を想起する原因は、包莖、蟻虫、陰部の不潔、便秘、癩癩、經神衰弱症、腦神經系の遺傳素因ある者、淫靡なる小説、卑猥なる談話、犬鳥其他の動物の交尾、兩親兄弟同一の寢室寢床に起臥する者、學校朋友同輩相倣ふに因る者、興奮性の飲食物、衣服の觸擦、舞踏、石鹼等の刺戟、以上の諸原因に因り測らざるも快感を覺え、若しくは想像を回らすに因り起るものなり斯の如く手淫は一の反性的行爲なるが爲めに啻に其の自遂(妄想)作用に依りて更に一層、腦神經に刺戟傷害を來し、而て個々人の隨意的隨所に遂行せられ得るが爲め一度び之を行ふ者は腦を傷害せられて高等なる自制力は乏弱となり劣情を抑ゆべき腦の克制力が麻痺するに因り逐次其の度數は頻繁となり身神の衰弱を來すと共に病的となりて手淫遂行は益々其度を加ふるに至りて交接の害に倍加するものなれば、愈々益々恐れて戒しめざる可けんや、尙ほ其の弊風や惡習は依然として形を斂めず、反性的醜惡行爲の絶えず行はれ之れが爲めに其の身を破り、國家社會を賊ふ者の相接踵するを嘆かばしきの極みなれ、手淫の害は、春期發動期に於ける青年男女に在りて、最も盛んに行はるゝ惡習にして、其の傷害の影響すること最も甚しく未だ生殖器の完全に發育を遂げず今や漸く將さに身體智力の發達激増せんとするの際な

れば此の時に傷害を受くる者の影響は、既に成熟期を經過せる者の被害に幾倍せるかは頗る明瞭なる事實なるべし、故に父兄母姉は其の品性の陶冶監督の上に、多大なる注意を要すべきや論を俟ざるなり、多数の青年を見るに此の害悪なる手淫に耽り房事過度の弊害と均しく非常に腦の諸機能殊に記憶力及び思考力を減殺し精神快々として樂まず、所謂憂鬱症の如く一室に蟄居して他人の交通を忌憚し、終に友情を毀損し爲に擯斥せらるゝに至る而して此の害の依て生ずる處の症状は即ち左の如し

- 一、腦は妄想的感念及び精液亂出の爲に侵襲を受け反射性腦の充血に依り爲に頭痛、眩暈、精神昏迷鬱憂を來し高等なる精神機能は乏弱となり、判斷力、記憶力、思考力、道義觀念を失し徒らに既往を回顧し或は瑣々たる事端を苦慮して將來を追懐し其の堵に安んぜず所謂依卜怪昆里「ヒボコンデリー」の症状を呈し又進で風癩症に變ずる事あり
- 二、脊髓も又之れが侵襲を蒙り諸般の機能障害を呈す殊に利尿中樞及び射精中樞、陰莖勃起中樞、の麻痺を來し之が爲に排尿の困難即ち尿淋瀝を來し亦射精及び陰莖勃起不能を招來す
- 三、房事過度の害と同じく(別項房事過度の部を熱讀參照すべし)甚だしく貧血羸瘦し皮膚粘膜の蒼白色を來し僅かの運動に依りて心悸亢進、呼吸促進、消化不良、血行障害、貧血、四肢倦怠、委弱、等の症を起し時に情緒感動の著るしく過敏に陥る事あり
- 四、夜間、盗汗、遺精、早漏、痿縮、等の如き症を喚起するに至る事あり
- 五、高等なる精神機能の障害即ち記憶力、理解力、忍耐力を減衰し不眠症を來し他日有爲

の青年をして一生の方向を誤しむ是れ個人の害のみならず實に社會文明進歩を阻碍するの一因也
 六、器質的傷害としては生殖器の發育不全、變形異狀、睪丸の組織變化、嫉衝を惹起し、遂に生殖作用を不能に陥らしむるの不幸に至る者也

●早漏症

○病理原因説明 早漏症とは交伴に際し感覺神經過敏にして未だ佳境に入らざるに精液を漏出する者を早漏症と云ふ其の原因多数なれども殆んど遺精に同じ然れども遺精よりは精神感動に因りて起るものにして勃起力の多少減殺せる者に多し如何となれば神經の過敏より疲勞を招き次第で弛緩するに依り一定時間抑制するを得ず通常交接により精液を射出するの原理は陰莖に分布する快美神經なるもの(摩擦的)に刺戟せられ頻々累層し快美其極度に達し初めて脊髓なる射精中樞の指揮を得射精神經を経て精液を射出するなり而して射精中樞は腦に非ずして脊髓にあり故に射精は不随意にして決して意志を以て遅速ならしむる事能はず然るに一朝他の原因により射精中樞なる快美神經の遲鈍若くは快美神經の腦中樞に至る迄に故障を生ずる時は射精機能の病的亢進に依りて快美感覺の調和平均を失ひ遂に早漏症を來すなり、是れ快美神經の刺戟興奮遲徐として眞の快味を感ぜざるに先き立ちて射精中樞は濫溺なる腦中樞に反射性刺激を受け茲に精液を早漏するに至る、余は數年來生殖器病専門院に従事し幾多の早漏症患者に接診實驗するに交接に

際し精液の早く漏出する性の者は神経過敏の傾向にして陰莖は常に包皮者に多し是れ包皮者の龜頭頸部は常に外表延長贅皮の爲めに包まれつゝあるを以て内面頸部の表皮は極めて軟弱なるが故に婦女に接近し僅微の感覺を受くるや未だ充分精神機能的眞の快美を感味せざるに既に局部の感覺過敏なるが故に忽ちにして精液漏出し勃起力減失するに至るものなり 故に別項の「包莖」と題する條下に説示せし如く包皮者の蒙る害は早漏症を來す基となり又龜頭頸部及び全形の發育不全の基となり將又交接時を永く行ふ時は毛切たれ或は擦過疵創を生ずる基となり、亦梅毒、りん病の悪毒菌を感受する誘起となるは事實上證明せらるゝ處なり依て早漏性の人は包皮者なる者は包皮の切除術を爲すか又或常に包皮を後方に翻轉せしめ陰莖龜頭を露出せしめ置き龜頭頸部を常時空氣に觸るゝ様注意せば浸潤性分泌液、便粕、不潔物、等は自然に掃除せられ且皮膚の抵抗力を強固ならしむるを以て梅毒淋病の毒菌を遮斷し且生殖機能を全ふし得べきものなり

◎男根萎縮症

○重症麻痺的陰痿、老衰性陰痿、精神的陰痿、神經衰弱性陰痿、貧血衰弱性陰痿、及び射精乏弱、第一陰莖の器質變性、恐懼羞耻、哀樂憤怒の精神感動、糖尿病、尿管症、腎臟病、惡液質及び貧血病、氣候感作、腦脊髓の慢性疾患、第二慢性亞兒面保爾中毒、第三初會交接に際し婦人より非常の羞耻を受け其目的を達し得ず甚だしく感情を障害せられ爾後毎回の交接に際し習慣性に男根萎縮を

來す事あり、第四春情發動期にして其情欲を恣まゝにし房事過度或は手淫を濫行せし者、第五全身病に罹り久しく病床に苦悶し身體一般の筋肉等の諸組織羸瘦せし者、その他慢性痲疾、膀胱加答兒、臭剝或は忽布腺の中等等なり其の原因に就て順序を追ふて一々之を解説すれば(1)腦脊髓の慢性疾患とは重に慢性脊髓炎脊髓癆を指す者にして此れが結果勃起中樞神經の麻痺を發現するに依りて來る、(2)慢性亞兒面保爾の中等より來る者は腦の運動知覺兩中樞細胞の障害によりて來る者、(3)全身病とは重に全身貧血を來す爲め身體諸組織の營養供給の缺亡を來たし之が爲に漸次羸瘦し萎縮を起す其の他末梢神經の疾患によりて來る事あり、世に所謂腎虛と稱する之れなり、陰痿は其の輕症なる者に在りては、時として微弱ながら勃起を來し、將た不完全ながら射精を遂げ得る事ありとするも、元來本症の徵候は交接不能、射精不能、精液内に精系(精虫)の存在せざる等に在るを以て、到底妊娠の目的を達し得べきにあらざる故に生殖上より見る時は頗る重大なる關係を有する者にして、加之、之れが爲めに夫婦間の溫情を損ふが故に家度の和合を缺の基となり器質的變性、即ち陰莖の化骨、或は罌丸の疾病に依りて精液分泌の廢絶せるが爲めに發せる者に在ては、亦如何ともする能はざるも、本症を惹起せる多くの原因は常に手淫妄行、房事過度、腦の過用、アルコール中毒、等に因するを以て見れば此の原因は最も慎み戒しむべきは増々其の切要なるを知る、或は精神感動に因りて來る者、羞耻、恐怖、悲哀乃至氣候の感作(殊に熱帶地方に於て見る)等の爲めに陰萎せる者は多くは單に一時的陰萎にして感情の融和、氣候の推移を來さば自ら恢復する者あり、然れども多數の該患者は、數ヶ月若しくは數年の長時日月に涉りて容易に治癒し難き者と認められ

たり、陰萎の療法は先づ其の原因の器質的疾患に存するか、或は精神的機能に在るかを識別し、其の依りて来る病原を除く事に努むべし、而して器質的變化の爲に來る者は多くは治癒せず、全身病即ち腦、脊髓の疾患、糖尿病、中毒症等より來る者は、其の原因にして治癒せば陰萎の治癒も亦不可能なるにあらす、是等の諸症より發せる者に在りては其の原因を除き得たる後、尙陰萎の後殘せる者に對して治癒を施すべく、手淫、房事過度より來れる者には、自己の神識を興奮せしめ、規律ある生活に就かしむると共に藥療を施すべし

●勃起衰弱症

○勃起衰弱とは勃起力の全然消失せし者に非ずして唯だ其勃起力の健體に比して弱きの差あるのみ或は却て勃起力の過敏にして一定時間勃起力を持続する事を得ざる者にして腦脊髓の疾病及びアルコールの中等等に依て發する一の症候に過ぎざるなり或は先天的に該力の發達せざる者あり譬へば先天性發育不全の如し或は一時勃起するも愈々交接せんとする時は急に萎縮して其用をなさざる者あり今左に勃起衰弱の原因を列挙すべし

第一手淫、第二房事過度、第三遺精、第四早漏、第五慢性アルコール中毒、第六腦脊髓の慢性疾患、第七梅毒麻痺病、第八全身の衰弱、等に依て陰莖勃起を主宰する神經の疲勞衰弱若くは過敏に因て顯はれ又陰莖血管の障害等の諸原因に依て發起し來る症狀なり

●房事過度の障害症

○房事過度とは名義の如く閨房の情を恣まゝにし之に依りて諸他の病原を續發し終に人生の快樂を營む能はず終生鬱々として不愉快の下に日を送るの悪結果を見るに至る豈に戒慎せざるべけんや

○房事過度は人体に最も必要缺くべからざる處の營養分即ち精液を多量に失ひ身體異常に衰弱し交接時精神の興奮に由り隨て神經に衰弱を來たし殆ど精神病者の如く精神鬱悒し又は癲癩病となり凡ての事業を成就するの念慮薄く記憶力は最も減衰し皮膚は蒼白色を呈し心悸甚しく亢進し呼吸促進、消化不良、即ち生殖器性腦病、健忘症、生殖器性胃病等の徵候を來し又は脊髄神經の疲勞過敏を起し爲に下肢の運動障害(時としては上肢に來る事あり)殊に健反射の亢進歩行倦怠等の合併症を起し依て身軀一般の自由を失し終に病床を求むるの已むを得ざるに至る又眼の神視的機能障害に依り物體の大小曲直を誤認し視力減弱し夜盲症の如き危険症を併發す故に房事過度の結果として最も恐るべく且つ最も多く續發若くは合併症として現はるゝ處の症狀は左の如し

第一精神の鬱憂、第二心悸亢進、第三記憶力の減衰、第四呼吸促進消化不良、第五視力障害、第六遺尿症、貧血衰弱症、第七脊髓炎、脊髄癆、麻痺狂、腦脊髓散在硬化、進行性麻痺、等種々の脊髄病及び腦神經衰弱症婦人に在りては「ヒステリー」症又妊娠中房事の過度に失する時は之が爲め妊娠を中絶し流産を招くの不幸を見る事あり又之が爲に種々の子宮病を續發する事あり豈に慎まざるべ

けんや注意せざるべけんや▲前項「手淫の害」及び「過淫の害」と題する條下を参照あれ

●老衰無力症

○老衰無力とは高老人の無力の意に非ずして醫學上の區別に従ひ三十五年以上四十五年以下の年齢にして勃起力の衰弱したる者を云ふ醫學上の區別とは人生を四季に区分し小兒期、青年期、壯年期、初老期とす其類別左の如し

第一小兒期は生後より十五年迄、第二青年期は十五年以上三十五年以下、第三壯年期は三十五年以上四十五年以下、第四初老期は四十五年以上六十年以下、六十年以上を高老と云ふ、以上の區別に因り三十五年以上四十五年以下に於て勃起力の衰弱を起すは生理的にあらずして後天的に受たる諸多の障害に依て顯るゝの結果なり其原因中最も主なる者は小兒期より青年期に移るの間に未だ生殖機發育完備せざるに先ち手淫或は房事の過度若くは痲疾の爲に畢丸炎を起し精液の製造を障害し爲に普通強壯の壯年期の人より早く色慾の觀念を減殺せらるゝに因る者と云ふ其他病原は腦神經衰弱及び全身血行障害、過勞等は其最も顯著なる原因にして陰莖無力の症狀を來す者也

●精液及精蟲(子胤)欠亡症

○精液欠亡は生殖器充分に發育せざるか或は發育するも或る一定の障害之に加はり精液射出力減

衰し精液排出量の減少或は欠亡を來す、精蟲欠亡とは精液中精蟲の欠亡せし者にして精蟲の製造基源たる畢丸の疾患に依て來る者とす今其原因を略記すれば左の如し

第一畢丸の先天的發育不全、手淫亂行、閨事過度、第二畢丸の梅毒及び結核、第三痲病に續發する副畢丸炎及び畢丸炎、第四打撲損傷に因りて精液製造要部なる畢丸中の細精管又は輸精管の癍痕收縮に因りて排泄を害するもの、第五諸他の疾病による全身衰弱營養不良等より來るなり

●陰莖發育不全症

○發育不全に二種あり先天的と後天的と是れなり先天的發育不全とは全くの不具者を云ふ後天的に發する發育不全は發育經過中複雑なる原因に依り發育機能の障害せらるゝを以て普通の程度に達せざる者を云ふ今其原因を左に摘録すべし

第一春機發動期に至らざるに際し手淫を濫行したる結果、第二房事過度、第三全身衰弱により生殖器の諸官能の整理緩慢にして從つて精液の製造盛ならず爲に春情の喚起は遅く勃起力は薄弱にして陰莖は充血を促す事少く故に陰莖海綿体等の空隙に血液の充漲する事なく從つて海綿体組織を營養するの力足らざるに依り充分に發育を遂ぐる能はざるは理の當然なり、而して予が東京、大阪、名古屋の各生司院醫局に於て數年來陰莖發育不全者に就て實診するに先づ患者の既往を深聞し体格を診するに一見外貌は壯健者の如くなるも前記第一、第二、第三の各條項に明示する諸多の障害を全

身に波及し在るを以て患者は多く脳神経衰弱症の兆候を顕有し記憶力、思考力は大に減衰し稍々顔体表皮上面は蒼白黄色を帯び又陰莖發育不全は包皮者に最も多數にして將た、夢精早漏、快美神經過敏なり、之れ陰莖を弄び手淫亂行の結果海綿体(陰莖眞部)の發育を妨害し單に外表皮は比較的發育延長し常に龜頭頸部を包みたるを以て龜頭頸部は常時空氣だに觸れざるが爲め内皮面軟弱にして便粕は汚着するのみならず龜頭海綿体は常時延長贅皮の爲に壓迫せられつゝ在るが故に遂に發育障害せられ短小不全となる依て是等後天的の發育不全者は其患者の既往現症狀に依り醫力を以て補療し得べき者なり

●陰莖包皮者にして(包皮切除成形手術を爲ざる者)は常時包皮を龜頭上より翻過し龜頭頸部を露出し在りて常に便粕の汚着しあらざる様注意し常時空氣に觸接しあれば皮膚の抵抗力を強良にし過敏性を治し腦中樞神經と快味感覺神經との調和を保ち其發育を補良する効を奏す

●生殖器病中治療法の最も至難なるは陰莖の發育不全症にして其原因に依り之が治療法に三種あり、内服藥治療法、注射療法、外科療法、及併用療法、等即是なり、陰莖包皮者にして延長贅皮の爲め龜頭上を被包し龜頭頸及海綿体(陰莖眞部)に血液の充漲を妨げ發育を障害しつゝある短少不全者は別項説示の如く包皮切除成形手術を施行し(此外科手術は局部無痛法に依り全然疼痛無く僅に十五分にして完了す)然して局所充血補給劑生司丸を三ヶ月乃至六ヶ月間分量を連服しヨヒン注射液を隔日に十回乃至廿回の注射を併用する時は藥用一ヶ月乃至二ヶ月内外にして全身の血行循環を良すると共に陰莖局部の海綿体組織に營養充血を補給し一定度の發育

を完全に成し得る者なり▲ヨヒン注射を嫌忌する者は注射代用藥内服ヨヒン頓用を毎夜就眠の際に一包宛併用連服する時は注射と同等の効能を奏す

○生殖器障害の爲に家庭に及ぼす事實は、世間に現はれず、暗々裏に葬られて仕舞ふ場合が多い、家庭上に於ける生殖器障害の研究と云ふことは、極めて必要にして又趣味ある問題であるけれども、其材料を得るは専門醫と雖も困難である、之を専門として直接に其患者に接して、其調べた材料を基礎にして研究する事は最も好き方法である西洋殊に近來獨逸に於ては生殖器障害の問題を研究する人が多くなつて、殆ど毎月一回位は本が出版されて之を讀むに暇が無い位發表されてゐるが、日本では餘り之を學術的に研究する人の少いのは甚遺憾なる次第である、生殖器障害の爲に家庭にどんな嫌やな事が招來するか、之を事實に照して取調べて見ると、非常に同情を寄せなければならぬ事件が世間に秘して澤山ある、生殖器障害全般の研究は浩汎の問題であつて、到底限りある紙面では説明することが出来ない、従つて今茲では單に生殖器障害と家庭との關係及び之が救治法豫防策につき、三四の例證を掲げて通俗的に説明する事とせり▲生殖器障害より起る悲惨なる實例▼結婚を拒む不幸の青年 或青年が結婚の時期に達して婚姻を否むといふ事がある、両親が幾ら勸めても、言を左右に託して結婚を斷る、如斯性の者を篤と診察して見ると、多くは生殖器障害の患者である、其一例を擧げて見ると、廿三歳の男子で、患者は十五歳の時から手淫を亂行して毎日三度位も行ふ、女を見ると直に發情する、其人が二十五歳の五月頃から勃起力が乏弱となり本年四月に結婚しなければならぬ時期になつて居る、併しどうしても

自由をして拒絶する譯にも行かず、自分獨り大に苦心の結果生司院醫局に來り藥治療法及び攝生法
 を行ひ、一箇月半許り治療して癒つた、而して四月に結婚式をやつて非常な喜びであつた、斯う云
 ふ風な例は枚擧に遑あらず澤山あるが皆秘して居る者が多いから生殖器障害と相續問題が起る、其一
 例と云ふは、二十九歳の男子で、此人は二十歳の時分に手淫を亂行し其後婦人に接して見たが左支
 ない、然るに二十二歳の時に勃起力が乏弱となつて來て、診察をして見ると完全陰萎症となつた、
 自分も斷念して仕舞つた、女を見ても情慾の觀念が起らないから斷念して仕舞つたが、兩親は健全
 で兄弟がない、田舎の豪農の獨息子である家を續ぐ可き義務がある、然るに斯う云ふ譯で女房を貫
 ぶ譯に往かないから、そこで自分は世の中をブラ／＼遊んで歩かうと云ふ所から、金を貰つて日本
 全國の神社佛閣まわりを企てた、先づら／＼と東京へやつて來て上野停車場前に宿を取つた、彼は
 其宿屋の亭主に自分の身上話をした、亭主がそれはお若いのお氣の毒な事であるさぞ御兩親が御
 心配の事であらう、そう言へば實は斯う云ふ處があると云つて上野町の第二生司院に紹介して來た
 そこで一箇月ばかり加療して全然陰縮症は癒つて仕舞つた、この患者は國に歸つて間もなく家を
 相續した、兩親も非常に喜んで何れ夫婦してお禮に上らせますと云ふ手紙を寄越した、是は相續問
 題に關係ある一例である、若癒らなければ其家を相續する事は出來ないのである
 ○生殖器障害と離婚との關係 生殖器障害が離婚の原因となる事がある、統計集誌と云ふ雜誌に、法
 學博士の高野岩三郎君が、日本人の結婚及び離婚の統計を調べてある、それを見ると結婚をする年
 齡は、男子に於ては二十歳から二十五歳が一番多い、之が結婚の三割以上を占めて居る、其次は二

十五歳から三十歳、女の方で云ふても矢張り同じ事で、二十歳から二十五歳、其次が二十五歳から
 三十歳、斯う云ふ譯である、之は結婚の方であるが、離婚の方は何うであるかと云ふと、男の方は
 二十五歳から三十歳の間に於て離婚するのが多い、其次は二十歳から二十五歳、三十歳から三十五
 歳、斯う云ふのである、女は二十歳から二十五歳、此間が一晚離婚が多い、何でも離婚は年々六萬
 人以上ある、之を吾々の生殖器障害の患者と對照して見ると、丁度生殖器患者は二十歳以上三十歳
 迄が一番多い、離婚表と對照して見ると、其離婚の最も多き時期が丁度生殖器障害の最も多き時期
 に當つて居る、由て生殖器障害が離婚の原因を爲す場合が随分少くはあまい勿論他の原因で離別
 する事もあらうが、病氣の爲に別れるのも多からう實際吾々が患者に事情を聞いて見ると確かに離
 婚の原因を爲して居るのがある、併し法律上生殖器の營爲的障害を以て離婚の訴を起す事が
 出來ない、妻は夫と同居する義務があるといふのであるから、法律上離婚は出來ないが、事實上面
 白くない所から女の方から出て往くのが多い、さう云ふ離婚の例は吾々は非常に多く見聞して居る
 今其一例を云つて見ると面白い例がある、患者は三十五歳、父は五十八歳で卒中で亡くなり母五
 十七歳で病身患者は幼少の時分に弱くつて時々痙攣を起した事があるが中年に至つて著明な病氣に罹
 つた事も無い、十五歳で手淫を覺れて、二十二歳の時に婦人に接した、痲病や梅毒をやつた事は無
 い、四十五年の三月に細君を迎へた所が、勃起はするが、それが實行を望む直に射精して仕舞つ
 て、早漏症未嘗つて完全なる交接を行つた事がない、そこで女の方から離婚を請求して出て仕舞つ
 た、婚禮して八日しか居なかつた、當人も非常に口惜しがつて、其女の悪口許り言つて居つたが、

生司院 生司丸を二ヶ月半量を服用して癒つて仕舞つたが、是もモウ少し辛抱して呉れれば宜い、惜しい事をしたもんだと言つて居つた、次に女の方の例では四十四年三月患者は二十一歳の婦人この人は母が中風で死んだ、はやくから手淫を覺へ、十七八歳の頃に神経衰弱ヒステリ症になつて、諸方の醫者に掛つたが一向効が無い、四十二年七月に養子を貰つた、所が春情は催すけれども交接しても更に快感無し、終には不愉快で男を嫌ふやうになつた、養子は金があるから出されてはならないと思つて種々尋ねた處が、交接しても快感がない、斯んなつまらない事は嫌だと云ふそんな筈はないが、それでは病氣があるのであらう、早く癒したら宜からうと云ふので加療した、さうして一週間も加療したが初めは何とも効力がない、三週間もすると段々工合が宜い、五週間で快感感覺神経が癒つて仕舞つた、そこで初めて琵琶和合の家庭を作る事が出来た生殖器障害と夫婦の不和其外夫婦の不和と云ふ事は、生殖器障害が大に原因となる者である今は例證を擧げて見ると、二十三歳の女、十七歳の時に初めて月經あり、以來不規則な月經、十八歳の時に結婚した、四十年の六月に子供が出来たが、産をした後で生殖器に障害が出来て快感感覺神経を鈍麻して更に快感が無くなつて仕舞つた、不愉快で仕様がなない、此人は一週間治療して感覺が出て来て、三週日で快くなつた、又二十七歳の女、十四歳の時の月經、爾來不規則で、十六歳で手淫を覺えた、二十歳で養子を迎へた所が快感が無い、だから男は面白くない、養子は外に妾を置いて離婚の問題が起つたが、治療して治らぬ事はあるまいと云ふので本療法を行つた、此人は三週間で癒つて仕舞ひ爾來家庭は圓滿で愛兒を儲けて子孫繁榮し居る、それから今一人は二十二歳の婦人、十五歳で月經

があつて二十歳で結婚したが、結婚當時は一向快感に異状が無かつたが、半年程で無感覺になつて仕舞つた、此人の亭主は軍人であつたが、細君がさう云ふ譯だから自分は他の賣笑婦に關係した、それが爲めに借金が出来、家庭は紊亂する、畢竟お前が悪い、早く病氣を癒したら宜からうと云ふので、生司院醫局に來りて加療した、是も治療して立派に癒つた、今のは夫婦間の問題から起つた事であるが、四十五年三月に加療した患者は三十三歳の男、此人の家は家庭が非常に嚴格であつたが、二十歳の時に手淫を覺えた、二十三歳の時に或女と關係して、二年間續けて居つた、彼は或事情で其女と別れた、それ以來非常に手淫をやつた二十六歳の時に家事實上面白くない事があつて遊廓に往つたが出来ない、ハテ不思議だ、今度は藝妓を買つて見たが駄目だ、淫賣婦に接して見たが駄目だ、何うもいかぬが何うしたら宜からう、其頃から腰が痛いとか、記憶力も無くなつて、神経衰弱の徴候を呈して仕舞つた、此人は最初秘密にして一人で煩悶して居つたが終には其苦惱不快に堪へ尋ねてトウ／＼加療する事になつた患者は二週間程で稍々勃起力が恢復して來た、當人大喜びで四週間程で癒つて仕舞つた

○ 卒中で落命 患者は愛知縣の生れで三十五歳の男である、十二三歳頃から手淫の悪癖に陥つて、二十歳までといふもの猛烈に手淫を續け甚だしい時は一日に數回も行ふた、其結果二十二で結婚をしたけれど陰萎症に陥つて、妻と同衾しても快感感覺神経が純麻して更に實行出来ない、妻はそれが不満で三月経たぬ中に他の男と姦通して逃出して了つた、其男はそれから幾度も妻を取替たが矢張り陽勢が振はぬので何れも出て了つた、其男はいよ／＼自分の不幸と諦めて淋しく獨身生活を送

り、又盛んに手淫をやり出した、すると今度は生殖器ばかりでなく、脳神経を犯きれて其爲にヨイ
 くの中風になり、それから間もなく卒中の爲めに死んで了つた、生殖器障害が原因で生命まで失
 ふとは實に怖るべき次第であるが、若しこの男にして早く加療服用を知つてゐたならば恐らくこん
 な悲惨な事はなかつたであらうに、**▲恚那實例もある** ▼或高等官の娘と富家の息子とが
 戀し合つて結婚したまでは可かつたがさう合衾の式をあげる段になると男の生殖器が少しも勃起し
 ない、花嫁は大にあてが外れて如何いふ譯かと聞いて見た、男は幼小の時から手淫を亂行したから多
 分其爲だらうと自白した、それから一週間経つても二週間経つても男の方が役に立たぬので花嫁も
 呆れて逃出し、今度五十歳ばかりの老人に再嫁しました、ところが此老人も早く老衰してゐたので
 若い妻の性慾を満す事が出来なかつた、此女は元來多淫の性質と見えて、二人まで情夫を拵へた、
 それのみで足らずに自爲淫情(手淫)の悪習に陥り、遂に生殖器を害して三十歳の時から交接不感症
 に陥つて了ひました

●腦神經衰弱症 ノイラストニー

●**神經衰弱** 症は男子を侵す事多き疾患にして殊に青年期に來し生殖器に關係する事多く有爲の士を
 して疾病的癡人を造成する事世間屢々實見するを以て茲に本症の説明を詳記し患者の爲に參考に供す
 ●**色情狂** 男女共に手淫の結果色慾過多の疾病に罹る者が多數であるその極端な者は所謂色情狂と
 なつて、何でも手當り次第、見當り次第の異性を捉へ之によつて色慾を充たさんとする物騒な傾向

を生ずるので、所謂**出齒龜症**是なり、遂に大罪を犯し或は癲狂院送りとなる、殊に此種の性
 癖ある者の中で、局部の刺戟により色慾を満さんとして、別に何等の疾病もないのに、婦人科醫の
 診察を受くるを以て、樂みとする女子のある事は注意すべき現象なりとす、色慾缺乏症 色慾過多
 の**反對に色慾缺乏症**の男女があります、殊に女子に最も多い、女子の色慾缺乏症は進んで交
 接するの意なく、又假令交接するも少しも快感を覺へず、却つて不快を感じ甚しきは、交接の際
 疼痛を起す事あるが爲めに之れを欲せず、或は壓悪する者を云ふ、其原因は主として少女期に於け
 る手淫が最も多い、又臍並に子宮粘膜の加答兒症、陰核の非常に萎縮せる者、舊き會陰裂傷の癒え
 ざる者、小陰唇の肥大なる者等皆其原因なり、それから夫の陽勢妻の快感を満たすに足らざる時は
 久しき後に至つて又此症を招來して來るもの多し

●**數多の動物は交尾期の外は、假令雄性に挑まるとも冷然として之れに應ずるの状がない、併し人間**
 は之れと反對で、生殖年齢にある女子は、月經時以外何時にても男子の挑みに應じて、直接生殖
 の目的以外に交接の歡を盡し淫慾を充たす者でありますが、一旦此症に罹ると、輕きは感情動かす
 常に交身の位置にのみ居る者で、此等は尙ほ夫の感情を損する事少くないが、重症の者にあつては
 淫慾を發せざる許りでなく、強て交接を行はるれば、其度毎に疼痛を感じ、或は臍痛を發し、氣
 を失ふ事さへあり、従つて所謂情勢を缺き、夫婦間の交情は冷かにして他人の如く、到底家庭の温
 和圓滿を持する事は出来ない、之れが爲めに婦人は益々神經沈鬱に趣き、遂にヒステリー症を發
 して病床に呻吟するに至り、男子は情慾を洩すによし無く、且つ其妻に依つて何等の温情を得ら

れぬ爲に、動もすれば花柳の巷に沈湎するか、或は妾婦を圍ふて婦を冷遇し、遂に家庭の平和を破壊するに至るのです、又男子の色慾缺乏症は、妻に満足を與ふる事が出来ず、妻は其爲に情を満すによし無く精神に變調を來す事がある、彼の役者狂ひをしたり、姦通したり、他の男子と墮落したりして、破倫の行爲に出づる例などは世間に珍らしく無い事ですが、之は畢竟その夫に依りて色情を満足せしめる事が出来ぬ爲であります、色情缺乏と不妊の關係 女子色情缺乏や快美不感症は、輕症であつても往々不妊症を來します、これ一は腔内に精液を保つ事能はざると、一は反射作用(快味感覺)の起らざるが爲に子宮頸腺の粘液が分泌し無いので、精蟲が頸管を越へて子宮に進む事を助くる便なきが爲であります、キツシユ氏は不妊の婦女四十名に付て、十二名の色情缺乏及び快美不感症患者を發見したのは其活證であります、是等も亦た手淫及び房事過度の結果に外なりません、男女の不妊 斯道専門醫士生司院醫局に於て實驗調査によれば、百九十二人の不妊症の夫婦共に診査したるに、其原因の夫にある者が五十五人あつて、何れも精液缺乏損症に罹つてゐた事を發見したので、即ち不妊症の約四分の一までは男子の罪で、之は手淫亂行、過度の房事及び花柳病等に依りて、生殖器を害したからであります、又若い時から手淫の惡癖を亂行した婦人も亦た不妊症に陥ります、其原因は手淫の爲に生殖器内部の發育を妨げられ、子宮後轉し、卵巢も位置を變じて神経痛を起し、白帶下の分泌と共に月經不調になつて子宮内膜炎を併發し、遂に不妊症となる事があります、其他多淫、手淫過度は總て子宮疾患の基になります、

○腦神經衰弱症は感覺神經の甚しき興奮及び事物の倦怠に依りて發する者にして遺傳は

斯病の發生に大なる關係を有し直接本病を遺傳するのみならず、他の神經性の疾患を有する家族よりも遺傳する者なり、時として先天性に本病に罹り易き性質を有する者あり、例せば兩親の酒飲者なるか、又は兩親の高齡に於て結婚せる者或は受胎の際結核、梅毒等に罹る者は其小兒をして此性質を享受せしむ、然れども本病は多くは後天的の者にして、幼年の時學校に於ける精神の過勞、過劇なる名譽心、不注意なる体育、嘔榮心、手淫亂行、房事過度は其重なる原因となるものなり、以上の如くなるを以て青春の血湧く青年學生に最も多く發す

●腦神經衰弱症の徵候 本病は俄然として發病し、或は徐々に發生し漸次に病勢を増進する者にして本症必發の症候は腦の障害にして醫家は之れを腦神經症と稱せり、神經の過敏は腦神經衰弱の一大兆候にして患者は僅少の精神的勞働に遇ふも直ちに疲勞倦怠し頭内朦朧となりて眩暈を來たし頭重、頭痛を訴へ悲歌悲詩を聽く事あらば直ちに哀を催し、或ひは鄭重なる待遇を受くる事あるも夫れを却て冷遇されし如くに感じ怒氣を顯はすなど、一方には多感の人となり、一方には誤識の人となり妬妬、猜忌、怨恨を伴ふなど其の思考力の減退は殊に顯著なれば事物に就て熟慮するの力に乏しく讀書するも其の意を解する能はざるに至る、此れ等の症狀は漸次其の度を増し些細の事項も重大らしく感じ、種々の妄想を描き、所謂取越苦勞を爲し自己の力の微弱なるを憂へ、勇氣沮喪して精神的事業を嫌忌し、若これを行ふに方りても恐怖の念を以て滿たざるに至る、かくて睡眠は甚しく障害せられて就寢するも容易に眠ること能はず種々の空想胸中に往來し終夜床中に輾轉反側して翌朝に至る、又た例令睡眠

し得るも其持續甚だ短少にして、屢不安の夢幻に襲はるゝに至り、何時の間にか夜明けの鳥の聲を聞くが如きは其常例の如し、夫の普通健康なる人が最も精神の爽快を覺ゆるの晨朝、獨り患者は疲勞の感を以て褥を離れ終日鬱々として樂まず、翌晩に至るも尙又前夜の轍を踏むに過ぎず、されば精神は益々過敏となり小心翼翼として所謂恐怖の狀態に陥り、殊に廣濶なる明間に至れば頓に恐怖に襲はるゝが如きは、これを醫家は**恐場病**と名し、故に鐵道施行河邊、絕壁の停立に際し恐怖の念禁する能はずして戰慄する事あり、又患者は甚しく自己の病狀に注意し殊に幼稚なる醫學の一般を解する者に在りては想像病を想起し腹部の疼痛を感じては自己の腹内に大なる蠅蟲の棲息するにあらすやと憂へ、頭痛を感じては腦膜炎にあらすやと憂慮するに至り感ずるも語るも皆これを曲解して分秒も安寧なる能はざるが如きは憐れむべし、遂に發狂者となるに至る事あり、以上の症候の一部にても自覺する時は速に療法を施す事肝要なり

○**腦神經衰弱者の精神的苦惱**

腦神經衰弱病者の精神的苦惱は前述の如しと雖も肉体的症狀を來す者も又少しとせず、今其二三を記述せんか、第一頭痛、第二頭重、第三不眠、第四動氣、其他手掌の出汗、手足の厥冷或は震顫等の類とす、殊に日本の青年學生輩は歐洲諸國に比して本症の甚だ多きは驚くに堪たり其理由は固より體質食物等の關係と身體運動及び攝生の宜しからざるに依る殊に學生に於ては一時に夥多の教授科目を日夜勉強し試験前の如きは常に越えて勉勵し腦は只一方にのみ集注作用し身體の運動は少く營養屢々不足するを以て本病の試験前に多發するを見るに至らしむ余は多年生殖器病専門院に従事し之を數千の患者に實驗するに本邦の青年に此症

頗る多し此れ手淫の濫行盛なるに由來するを知るなり而して年齢稍長じたるの後青年期に於けるの非行を追想し之を憂慮するの餘り又本症を起す者小なきに非らず……

▲本症は將た婦人血の道歇私的里症狀と稍類似するが故に左記の如く説明せり

○**本書手淫の害條下の(一)(二)(三)及び房事過度の第一第二第三第四等は是れ皆本症を起したる一の症候と見做すべきなり加之ならず此症の爲め生殖器に種々なる障害を來すは本書各項の病理説明症候の條下を熟讀せば判然すべし**

○**學生の外**

此症の最も多きは身を難地に置き神經の使用過度なる者即ち官吏、學者、貿易業者、事業家、裁判官、辯護士、新聞記者、政治家、等に多發す是蓋し文明の進に從ひ諸般の業務複雑繁多となり精神の過勞益々劇甚となるが故なり又婦人に在りては一家の不和又は嫉妬心、愛子の死亡、男女の戀情、失戀の悲哀、生活の不如意、至難の學課を修むる等に由來し精神感動の非常刺戟の爲め本症を惹起する事多くして農夫、工夫、職工等には稀少なり

○**手淫の害に次で本病の原因となるものは房事過度にして又慢性疾患に伴ひて起る事あり例之は肺結核、糖尿病、胃擴張、腦病、等の患者に於て屢々實見する所なり是等の症は多くは其經過長きを以て意中に種々の杞憂的念慮を起して神經衰弱症を惹起す**

○**症候**

本症は「ヒステリー」症、比ト昆垓里症及び癲狂と相類似する者にて此症の増悪する時は左記の症狀に陥る者なり

○**精神的變狀**

は此症に來る最も顯著なる病兆にして患者は杞憂の念慮頻りに心頭に浮び高等

なる精神機能は乏弱となり思考力減衰して理非曲直を判考するの思量に乏しく些細の事を追想し未來を考慮し爲に平素鬱々悒々として樂ます人と交際する事を嫌忌し些々たる事に遭ふ或は怒氣勃々として意氣大に激昂し或は悲憐の情溢るゝが如きあり杞憂の感念は絶えず腦中を離れず夜間就床するも容易に睡れず所謂不眠症を起す然れ共之に反して往々睡眠を貪る患者あり……將た記憶力減衰して見聞したる事は容易に忘却し忍耐乏弱なるを以て事務を執るも暫時にして倦み易く精神を使用する事に就ては著しく倦怠し強て書を見讀せんとすれば四肢頭腦は壓重の感覺を來すに至るあり

○神經性の想像病なる者あり例之患者脊髄の痛みを恐るゝ時は脊部の疼痛不快なる感覺、下肢の疼痛知覺異常を來すが如し而して此想像病なる者は遂に眞正の疾病となる事あり右の精神症候の外各臓器に來す症候を序述するに當り予は左の如く區別するの適當なるを信す即ち腦性、脊髄性心臓性、消化器性、生殖性は是れなり(次項の依ト昆垚里及び歇私的里症の項下を參讀あれ)

○腦性神經衰弱症 にはありては頭痛、頭重、眩暈、頭旋の感あり腦血管弛張の變化甚しき爲に顔面或は充血して著しく赤色となり或は著しく蒼白色となる(別項神經症腦病の題下を參照あれ)

○脊髄性神經衰弱症 には身體常に倦怠を覺へ脊痛及び處々の疼痛、知覺障害せらるゝ事あり而して此知覺障害たるや多くは過敏となり寒暑疹痒を感別し易し

○心臓性 の者は心部の壓重、呼吸促進、心氣亢進、脈數増加、手足の劇しく發汗する事あり足には各種の麻痺及び牽痛の感あり交接を好まざるか或は之を營む事能はざるに至るものあり

○消化器性 の者は毎食後胃部の壓重、疼痛、大便秘結時として下痢を起し食欲は多くは減損し或は食物を著しく嗜み或は著しく厭ふの状態あり(別項神經性胃病の條下を對照熱讀あれ)

○生殖器性 の者は是れ余の最も主として論ずる所なり此症に於ては生殖器に關係あるは色情の變化なり、色情は多く亢進して爲に男女共に手淫に耽り盛に濫行し其氣勢を増悪し遂に色情狂に陥る者世間往々あり殊に此色情狂は女子に於て最も多き者にして多くは神經衰弱症より續發する者あり、彼の古來稗史小説に「戀の病」と云ふ事あり其一部分は此神經衰弱症の劇甚なる者ならん、然れども殊に色情大に減少して交接を忌避し甚しきは兩性接近だも厭ふ者あり所謂癡淫性は是れなり是れ又癡狂の一屬也▲別項遺精、夢精、手淫の害、房事過度と題する各條下を參讀あれ

○生殖器性神經衰弱斯病は一般神經衰弱と異なる處なきも主として生殖器局部は神經の刺戟に感じ易くして比較的興奮し易く又容易に衰弱に陥らしむる者なり、其甚しきものに至りては殆んど色情狂の如くなる事あり、今普通神經衰弱に異なる點を擧ぐれば即ち生殖器附近に起るべき神經痛にして、局部に何となく異状を呈し又交合時に至りては更に快感なく射精し或は射精の早き(早漏症)に過ぐるのみならず、交合後は非常に倦怠苦痛を覺ゆる者なり、而して身體の病状

としては主として遺精なりとす、遺精は生理的關係より壯年の未婚者又は交接斷絶者に多く見らるゝなり、然れども神經衰弱に依りて起る遺精は其勢猛烈にして數日連續する事あるべし、此の如くにして精液減少の身体及び神經は益々衰弱を來す者なりとす、女子にありては、曾て相戀の男子と結婚の約早くに成立したるに抱はらず錯綜せる事情のために心ならずも履行せざる事ありたるとき

又は女子は交合の快樂を感ずる能はざる時にありても婦人は凡て遠慮深き者なるを以て之れを訴ふる事を成さず、不知不識の中に神経衰弱婦人血の道ヒステリー症に陥るものなり

○生殖器に來る症候中最も貴要の症候は、陰萎、夢障、遺精、早漏等の兆候にして又往々快美減少甚しきは絶無を來す事あり而して此の如く生殖器障害を來すは手淫又は房事過度に原因する神經衰弱症を來す事最も多し又膀胱知覺過敏の爲に頻りに尿意を催する事あり

○此の症は患者の杞憂するが如く危険の疾病にあらず爲に死に至るが如きは殆んど罕なれども往々「ヒステリー」症、依ト昆垚里、麻痺狂、癲狂、等の諸症に陥るの不幸なる者あり而して食慾減損の爲に身体の營養を障害せらるゝに至る者屢々あり

●比ト昆垚里 本症の原因は神經衰弱症に等しくして壯年の男子に多發し生殖器疾患、手淫亂行、房事過度、消化不良、頑固なる便秘、強度なる失望の杞憂の念慮、等に因來す

○症候及診斷 精神的疼痛及恐怖の念慮、沈鬱状態を以て特徴と爲す、患者は常に精神鬱抑して謂れなきに自から身体を苦慮し諸般の妄想的觀念及恐怖の念を招起し精神沈鬱、不眠、就業嫌忌其他頑固なる便秘及皮膚の知覺異常を來す、重症なる者は内臟神經の過敏を起し知覺神經の變状を顯發し所謂想像病なる者を造成し假令ば風邪の爲め咳嗽出ば日外肺病者と交話せし爲め感染せしにはあらずやと苦慮し或は僅微の疼痛不快の感覺あると自から重病の如く思推し棒大に訴ふるが如き是れなり然れ共患者の才能は少しも障害せられず、却て自己の妄想的疾病

に就ては其病理を講究せんが爲め醫書を繕きて益々其妄想を逞うし或は一の醫士に就き之を問ひ又轉じて他醫に到りて之を質し百方自己の疾病にのみ苦痛するに至る其他輕症者の症狀は前項「神經衰弱」の兆候及次項「ヒステリー」症狀に類似せり

●婦人血の道 ヒステリー

○歇私垚里症 は神経系の病として解剖上には何の變化もなき者なり二十歳前後の婦人に多發す……病原は一家の不和又は嫉妬心、愛子の死亡、男女の戀情、失戀の悲哀、生活の不如意、至難の學課を修むる等に由來し精神感動の非常刺戟の爲め遂に此病を惹起するに至る故に中流以上に多くして下流社會に少なし而して醫家にして猶ほ歇私垚里は即ち子宮病なりと診定する者あるは是れ誤れるも甚しき事なり乍併常に子宮病とは關係深くして子宮病の反射は直に精神に感ずる者なるが故に多くは子宮病あれば又歇私垚里症となることは事實なり即ち婦人血の道と云ふものは是なり

○症候 多くは身体衰弱し床に就くを常とす精神は過敏となり僅かの事に笑ひ又は泣き元氣好しと思へば忽ち鬱憂の短氣となり暗き室内に籠る事を好み常に頭痛を訴へ或は自分より起したる想像に意志を左右せられ又は人の好まざる食を好み人の嫌ふべき臭味を好む等五管の變化を伴へ時々胃の痙攣を發し或は身体の麻痺を訴ふるも數時の後に恢復す胸惡心嘔吐などを僅の原因に依て起し心悸亢進を感ずるを常とす又吃通欠伸を爲す殊に胃痙攣即ち癢を起し之が習慣となりて俗に持病となるものなり(別項の神經性胃病の條下を參讀あれ)

生殖器病患者攝生法

規律的生活を最も必要なりとす

○第一 規律的生活を主要とし攝生法は精神を安んずるに杞憂心を去りて意志を可成的他の愉快の方面に向くべし、夜業を廢止し早く寢に就き充分に睡眠を取り運動を適度にし殊に早朝空氣の清涼なる所に於て屋外運動をなすべし、飲酒、喫煙、喫茶を節減すべし、食物には可成的滋養物を採り殊に米利堅藥葡萄、牛乳、肉、鶏卵、等は大に可良なり

○便通を整理し殊に大便の秘結したるものに按腹法を適正に行へば効を奏す止むを得ざる場合の外は下劑を用ふるべからず、水治法は冷水を布片に浸し身体を摩擦するを以て最も可とす海水浴又卓効あり、空氣清涼氣候温和なる山地又は海岸の轉地療養も大に効を奏する事あり、按摩術を身体の倦怠部に行ふも可なり、電氣療法又著効を見る(一)起臥の時間を一定する事(但し毎朝五時より六時迄に必ず起床し夜は必ず九時より十時半迄に就床し安眠すべし(晝寢は爲すべからず)(二)運動時間及び場所を定め其時間には晴雨に關せず毎日運動散步すべし▲運動の效能▼運動を適度にすると時は中樞機關なる腦を始め体内諸臓器の養血を消散し、精神機能を旺盛ならしめ、水分を排泄し呼吸を強くし、脂肪過多の人にありては脂肪を燃焼し去りて筋肉の發達を助くるに偉大の効あり過劇の運動即ち身体に疲勞する程の運動は却て害となるが故に注意すべし、毎朝食前に適宜の運動をなすべし、食後は少くも三十分は休息すべし、(三)手淫の惡習ある者は斷然廢すべし、(四)房事

は一週間内一回或は二週間内に三回を越すべからず、交伴は可及的短時間に行ふを可良とす徒に長時間行ふ時は粗暴に亘り交互擦過傷(俗に毛切たゞれ)を齎り易く又感覺神經の異狀を招來し遂に腦神經衰弱症を惹起するの原因となる、(五)食餌は三回の時間及量數を定め充分咀嚼し唾液を混合せし後嚥下べし(但し一回の食物の量は各自體により定むべし)

○水治療法を行ふべし其方法左の如し(但し左の四法の内各自體質に)

- (一)冷水を以て背部四肢及び陰部を海綿或は手拭を以て洗滌し後直に其部を摩擦すべし(但し斯の法慣るゝに従ひ朝夕二回とし且海綿或は手拭を搾るの度を減すべし)
 - (二)冷水を背部四肢及び陰部に灌漑するなり是の法の度數時間は初より慣るゝに従ひ増すべし
 - (三)一定時間頸部以下を冷水に沈め後ち全身を摩擦すべし(但し慣るゝに従ひ時間を増すべし)
 - (四)毎朝洗面の際に手拭を冷水に浸潤し軽く搾りて陰部其他股間全体及び腰部等を拭擦すべし
- 右四方の内一法にても常時行ふ事能はざる者は毎朝早く起床し洗面する時に手拭を冷水に浸し適度に搾り頸部、四肢、脊髓、下腹部、陰部周圍、等を五分時以上摩擦すべし此法習慣的に毎朝必ず行ふ時は精神の爽快を覺へ全身皮膚面の抵抗力を強壯ならしむべし、
- ▲又夜就床中種々の空想に驅られ不眠を來したる時は右の如く全身に冷水摩擦法を行ひ安んずるに就床し精神を愉快の方面へ向け睡眠すべし
- 一空想を抱くべからず、二毎入浴後陰部に冷水を灌漑し其部を手拭を以て摩擦すべし、三滋養食料を充分に取るべし(即ち魚、鳥、獸、肉、乳汁、鳥卵、穀物、の類)、四不消化の食物及び植物性油類の

調理食物及び刺戟物即ち唐辛、薑、芥子、山葵の類、且つ又上等茶類は禁すべし（但し常に酒飲の量強き人は酒類を少量に飲用するは妨げなし）五過度に精神を勞すべからず、六就床の際は枕を高く靜肅に眼に就くべし、七陰部に多くの物を觸る可からず（例へば布團の如きもの又は陰部に手を附し眠る如き類なり）、八被覆は厚重に失すべからず、敷き布團を厚くし被覆は薄くすべし

○酒の害毒 少量の酒は沈鬱せる精神を爽快ならしめ或は麻酔薬として効用ある如く感ずる者あるは大なる誤謬にして酒は身体の勁敵なりと知るべし、素人は少量の酒を以て一時興奮の効ありとするも酒量は常に一定の量に止まるものにあらず、次第に其量を増加するものなれば終には腦の細胞を脆弱ならしめ、記憶力の減耗、思考力の減退、精神の不安、睡眠の不定等の害毒を逞ふし恐るべき神経衰弱に陥り、精神病、癲癩、卒中等の突發病の爲めに、生命を失ふに至る。戒むべきは酒にあらずや。

○煙草の害毒 煙草の主成分に含有するニコチン中毒の恐るべき事は一ぶくの莖中に含有するニコチン毒は九羽の雀を殺すの毒あるを以て之が人肺に波及する害毒は幾何なるかは吾人の説明を要せざる處なり、而かもこの恐るべきを知りて尙ほ喫煙を繼續しつゝあるは實に沙汰の限りといふべし、煙草の害毒は常に鼻を刺戟するが爲めに、直ちに腦神経を害し慢性の鼻加答兒及咽喉加答兒を起し腦神経を刺戟すること多大なりとす、諸子は最初喫煙せし當時は一本の巻煙草、一包の刻煙草にても早く既に中毒に罹り頭部重く且つ眩暈し甚しきは、嘔吐を催ほせし事あらん、然れども其習慣性となるに従ひて其反應減少すべしと雖も、喫煙前の自己が身に比ぶれば大差あるを自覺せらるべし即ち精神沈鬱となり、判斷力を失し終に喫煙するにあらずんば其用を辨する能はざるに至る、之れ即ち其中毒されたる確證なりと知るべし、然るに世人は尙此状態を繼續して顧みず、遂に其習慣は進みて、腦神経、心臟を犯し血液の循環に障害を起すに至り哀れむべし、一包の煙草の爲めに遠大の志望を抱いて神経質病的の人となり遂に厭世者となるに至る。故に斷然禁煙せらるるを可なりとす、殊に咽喉、胃、眼、肺、心臟、等の弱き人、神経衰弱者にありては一層其必要を感ず。

○ヒステリー患者は酒と煙草を止めよ 酒と煙草は美貌を害する者にして、一旦神経衰弱に罹れば美貌を損する事は事實なり、而して、ヒステリー婦人にはヒステリー顔あり、又神経衰弱者には神経衰弱顔あるなり、而して其面相普通の顔よりも皮皺の多數ある者とす、浮世の苦勞も解せざる人において年老ると雖も皺襞の少なきが如く、凡て自己の美貌を保たんとすならば功めて心配の原因を去り夢にも澁面を作る勿れ、泣顔、膨れ顔等はなすべからず、夫の佛頂面や泣顔は眼瞼も下り口元も尋常ならざるなり、即ち神経衰弱ヒステリー患者の眉間や上眼瞼の部分に平かならざるにあらずや、而かも皮膚のこの部分に對しては深く皺をな

しつゝあるを見る此の如くにして如何に美貌を保たんとするも得べからざる事に屬す、見よ其容姿美ならずと雖も小兒は實に其舉止天真爛漫眞平に鍾愛すべきにあらずや、實に前掲の加く病的症狀の誘因なる飲酒と喫煙は戒むべきものなり

○健胃強壯補血劑として米利堅藥葡萄圓を兼用する時は主治藥の効力一層急速ならしむべし

但し米利堅藥葡萄園は本院附屬藥局の藥劑師檢定を経たるものに非らざれば飲用す可からず尙ほ常日、牛乳、鶏卵、ソツプ、牛肉、其他副食滋養物等の代用とする時は其滋養力著大なり此攝生法は生殖器病患者の外に神經衰弱症、婦人血の道、ヒステリー症、比下昆垓里症、胃病、肺病、神經的諸病、貧血症、腦病、身體衰弱等の者に適用して大効あり但し前記各項全部又は一部分を各患者の體質に依り之を行ふも可なり

一滴千金滋養強壯劑の大王

●米利堅藥葡萄園

純粹葡萄ノ精液

價定

| | | |
|------|--------|------------|
| 一ヶ月分 | 一ポンド入 | 金一圓五十錢 |
| 二ヶ月分 | 二ポンド入 | 金二圓八十錢 |
| 三ヶ月分 | 三ポンド入 | 金四圓 |
| 四ヶ月分 | 四ポンド入 | 金五圓二十錢 |
| 小包送料 | 荷造費共 | 二ヶ月分迄金貳拾八錢 |
| 四ポンド | (箱詰四本) | 荷造費共金四十五錢 |

●効用……藥餌的……滋養元資料

葡萄園の性狀は純粹生葡萄の液汁にして滋養補血健胃強壯劑を好度に加味し甘、苦、辛、酸、澁、の五味と芳香薫郁とを好度に含有せる風味美を極めたる滋養飲料劑なるに付牛乳、鶏卵、ソツプ、牛肉等の滋養副食物の代用として毎夜就眠の際に小盃に半盃位宛を服用する時は身體の血行を良くして安眠を得主治藥の功を補給するの特効あり

●生殖器性に起因する(●胃病●腦病●記憶力●思考力減衰●貧血病)

○本書は名の如く生殖器病専門の小冊子なれば、胃病、腦病、貧血病、の項を編加するは聊か異様の感有ると雖も余が數年來生司院醫局に在りて數千の實地患者に接診實檢するに生殖器亂行の障礙に依て起因する患者あるを認めたるを以て茲に追加して患者の參考に供す事とせり依て他症に關聯

する症狀は單に其病名のみを記し生殖器に關聯起因する病狀に就てのみ説示する事とせり

●急性胃病

……(原因)……暴食、暴飲、不消化物、酸敗物、寒熱其度に過ぎたる者、魚菌の中毒、又劇甚熱性病の前驅腸加答兒の波及等或は遺傳素因者は僅微の刺戟的感覺に依り急性胃加答兒の症狀を來す

●慢性胃病

……(原因)……急性胃加答兒の不治又は再發飲食物の經久刺戟、肝、心、肺の疾患に關する胃の鬱血、胃潰瘍、胃癌、貧血、萎黃病、喫煙、過酒、過茶、コーヒ、不規律亂食、等に依て來す

●胃潰瘍 ●胃病 ●胃擴張 ●神經性胃病 ●食道癌

●胃病

一般の症狀及診候……輕症にありては、舌苔、食思缺乏、食後胃部の壓重大便秘結或は下痢を來す、胃部の痞滿、嫌食、嘔氣、胃痛、吞酸、暖氣●重症にありては右症候の外、發熱、不眠、譫語、疲勞、倦怠、頭重、尿査、便秘、膨滿、壓痛、尙腸に波及すれば腸加答兒を兼發するものは下痢あり

○初生兒にありては、吐乳、顔面蒼白、不安、啼泣、時々痙痛、

○成長兒に在りては、發熱、頭痛、胃部疼痛、舌苔、食慾不進、嘔吐、等を來す

(1)急性胃病輕症療劑……雜物暴食は急劇に嘔吐を催し下痢を來すは急性胃腸加答兒……身體を安靜に就床せしめ甘朮○、五約刺巴末○、五混和一包を頓服す凡三時間以上五時間位にして胃腸の滯留物を下通せしむ。口中乾燥を訴ふる時は稀鹽酸一、○單舍二○、○燈皮油一滴留水二○○、○の配劑を時々與ふべし。次硝酸蒼鉛一、○炭酸麻屈涅矢謨○、五大黃末○、五重曹一、○龍膽末○、五百含糖百布聖一、○メント油四半滴、以上混和し分三包と爲す一日毎食前一包宛服用す。重曹三、○苦丁二、○(腹痛を訴ふるときはホミカ丁十滴を加ふ)留水二○○、○以上混和二日分服す

(2)慢性胃病……鹽規○、五ホミカエキス○、二健末一、○大黃末○、五規那皮末一、○以上六十粒に製し一日三回毎食前十粒宛を服す

●病腦

……腦貧血、腦充血、腦出血、腦膜炎、結核性腦膜炎、腦炎、腦震盪……劇甚なる精神感動に依て

急發するときには眩暈、悪心、瞳孔縮少、冷汗、脈搏頻數、或は遅徐にして微弱となり人事不省に陥り往々四肢に痙攣を發して忽ち卒倒す是れを失神と云ふ然れども通常數分時にして自覺す

●慢性腦病の原因：營養不良、常習下痢、大出血、精神感動、不良なる生活方、身体貧血諸種の中毒、十二指腸蟲、授乳の經久、等の諸因に依て來る。症候、皮膚蒼白、冷汗、食慾缺損、頭痛、耳鳴、眩暈、失神、等の症候を認む

○療法出血持久し又は常習下痢或は授乳經久等其原因となるべき事項を除去し血量恢復を謀るべし
●急性腦病 卒倒する患者は總て頭部を低く下げ下肢を高く平臥せしめ其衣服を解き緩め且つ冷褌法を頭部又は胸部に行ひ及び臭藥類即ち安母尼亞酒精類を鼻孔に嗅入せしむべし但し凡て失神を起すべき諸件を避け適當の營養法を謀るべし殊に小兒の下痢後に來る腦貧血に於て然りとす其他身体を温むを宜しとす

●腦充血 …原因：實性と虚性との別あり

○實性腦充血即ち積血は心悸亢進、腦及軟腦膜の炎症、營養障害、卒中質の血族、暴酒、精神過勞、便秘、胃病、閉經、側枝血行障碍、等に由て來る

○虚性鬱血は肺病、強劇の咳嗽、咽頭狹窄、心臟病、腦脈管交感、神經麻痺、等に依て來る
要するに積血に在りては前頭及顔面の灼熱、潮紅、耳鳴、瞳孔縮少、結膜充血、眼炎、閃發、頸動脈及頰動脈の搏動、頭痛、痙攣、腦卒中様の諸微候皮膚蒼冷等の症候を認む

○療法：原因療法を第一として一般に頭部を高く安臥せしめ其病室を暗くし是に於て瀉血或は頭部及心臟部の氷褌法を行ひ四肢温包し峻下劑を投與し又は肛門内灌腸を施す其他身体の攝生を整理して飲食を制減せしむることに注意すべし

○以上列記せし、胃病、腦病は一般患者の既發症狀にして余が特筆論載するの要旨は男女青年期よ

り壯年期の間に招來發起する一般醫家が(神經性胃病) …(神經性腦病) …或は原因不詳と稱する暗點に付て余が多年研究の結果茲に指摘明診斷定し世の患者及醫家の參考に供せん此神經性と稱するは精心の感動所謂神經の非常刺激を指稱するの意なるは論を待たずと雖も此症の根源を探診するに左の如く列記する適當なるを信す

(1) 先天的素因 (2) 先天性虚弱 (3) 後天的營養不良 (4) 生活の不如意 (5) 過度の心勞 (6) 青年期に於ける手淫濫行、房事過度是なり人の出生後青年期間に於ける身体機能全般の發育すると共に色情心の亢進するを自から抑制するに途なく遂に悪友の誘導に習ひ手淫の濫行甚敷或は房事過度に耽けりて之れが渾身に波及する障碍自覺症狀としては、心悸亢進し、頭重感覺、四肢の倦怠、を來すも一時性的ものは數時間或は僅日にして治す而して過淫の害に依て來る腦病の症狀は一般腦症と異なる點は接診上腦充血の症狀稍々輕微なる様に見受るも後頸部(後頭項部)に壓重を覺へ、又眼の視力、は異様に減退し冷汗を催し食慾缺損等本書の「神經衰弱症」の項に說示せる状態を來す是れ人の青年期に於ける全身機能の發達著しく盛なると共に情慾亢進するが故に不知不識の内に往々過度に失する事あり依て其障碍の波及する診例を知らんと欲せば本書の手淫の害、房事過度、神經衰弱症の各題下を熟讀參照せよ、凡そ其人の健康を保全し智能の良く發達するは全く血液循環の健全なるに由る然るに色情過度に失する時は徒らに精液を漏出す此液は血液より成化するものにして之れを血液に對照する時は大約四十倍の精分を有せり一回の淫事或は夢精又は遺精に依て精液三十滴を漏出する時は全淋の血液一千二百滴約一百瓦(五勺)を失ふ若し一夜に二回行ふときは大約一合の血液を失するに均しく故に全身血液の循環を障碍すると論を待たざる次第なり…(人体の血液全量は淋量の十三分の一即ち十三貫の人は全血液一貫あるが如し)…故に之れ等の弊害に因し智覺神經の異狀を來たし或は反對に遲鈍となり顔体は往々蒼白色即ち貧血症狀を顯發し五官神經の

異狀を來すを以て些々たる少事も非常に神經を刺戟し時に恰も腦病の症狀を來し、頭重、眩暈、耳鳴、頭熱、を起し胃の痙攣を發起し、食欲缺損、胃部握重、の感を覺ゆる等真正の胃病、腦病、貧血症患者の狀態と等しく殊に記憶力、思考力、は著しく減退し遂に本書の神經衰弱症の條下に詳述せし狀態を招來するに至る此性に依て來る患者の療法に付て最も注意を要するは患者の精神的療法なりとす世の名醫大家が適藥を投與すると雖も患者が精神的信頼の念薄き時は毫も藥効の感應を得ず却て輕視疑心の念を高め強て連服する時は異様の感覺を自ら起し所謂、依卜昆垓兒、歇斯的里の症狀を招來するに到るあり

余が當生司院醫局に従事する十有餘年幾萬の患者に接診す或日余は休日當り來客と交話中學生某十九歳父附添來り是非強て余に接診を乞ふに依り醫局に出て患者の既往症を探聞し且つ現症狀に付て篤と接診せしに前述の症狀を認めたり而して父の訴旨は患者本人の事情と勉學の前途及都市の名醫大家の治療を請けたるに殆ど二ヶ年に及び資財費して今日の貧狀を明かに訴ふ依て余は試に(健胃爽快劑)を七日分投與せり然るに患者再び來りて余の面前に父子共に泣涙して前日施藥の厚意を謝せり患者滿面に喜悅の色を浮べて曰く是迄二ヶ年の長日月各所の大醫に療を請ふて診察料藥價を消せし幾百圓なるを知らず加之疾病的廢人社會の贅物者に陥らんと苦慮せしも不計先生の投藥効顯ありと謝せり依て余は再診するに前週の症狀大に放散せしを認め且余を信頼するの念厚きを認めたるを以て余が方劑の丸藥二種を與へ連服三ヶ月の後には病症を認めず根治の良効を奏せり依て余は爾來此症の患者に接するや先づ第一に精神的療法に重きを置き余に信頼の心念厚薄を確め然る上一定の期間中主治藥を與ふ、痔疾の外科手術梅毒りん病等の患者に付ては是等の方針に依らず一定の適藥療法を以て可とするも男女青年期に來る神經質所謂過淫の障礙に依て來る病狀に對しては藥治の力のみに一任すべからず適藥効大なりと雖も患者の心頭に浮風の念ある時は精神の感情厚薄あるが如し

◎療法及常時攝生法適合藥は各自病狀を詳記し御申越し次第御回答可申候

●元氣腦神經衰弱症 ●心氣元進 ●身體貧血 ●其他生殖器病より起る諸症にて不振 腦神經衰弱 ●精神疲勞 ●おあせ ●強壯ならざる不快の人は試みよ

●患者 斯道專門醫士院醫局に於て 生殖器病專門藥生司丸藥料

一藥價は一日三服用分一種に付金拾貳錢と定む二種服用を要する時は一日六回分服量金貳拾四錢とす 但し一ヶ月分以下は一種一日分金拾貳錢の割とし左記の通り割引す

- 一壹箇月分(三十日)間分量金參圓四拾五錢……………一日分金拾壹錢五厘の割
- 一貳箇月分(六十日)間分量金六圓六拾錢……………一日分金拾壹錢の割
- 一參箇月分(九十日)間分量金九圓四拾五錢……………一日分金拾錢五厘の割
- 一四箇月分(百二十日)間分量金拾貳圓……………一日分金拾錢の割
- 一五箇月分(百五十日)間分量金拾四圓貳拾五錢……………一日分金九錢五厘の割
- 一六箇月分(百八十日)間分量金拾六圓貳拾錢……………一日分金九錢の割

以上藥價割引の趣意は前顯詳記せし通り生殖器病たるや其病症、急性輕症、急性重症、慢性輕症、慢性重症、及各患者自体の發生起原或は諸多の障害原因等に依り之が治療服藥日數を要するものに付藥價高値なる時は總て其服藥を怠り治療中絶する者世間往々之れあるに依り本院に於ても藥種原料及經費の許す限り藥價を勉めて安底に割引すべき者とす

兎角服藥受療患者は藥効應分奏始すると同時に最早全効を奏治せしが如く誤認し服藥中絶するが爲め後ち再發の憂を招き輕症を重症に至らしめ終に吾身の大不幸を來す者世間其例又尠からず乞ふ受療服藥患者よ本院の意を領し吾身の病苦を考慮し生殖器の効力を重んじ充分服藥全効を得る迄謹儼御連用相成度敢て茲に進言するものなり

●生殖器病専門藥 生司丸

生司丸院 醫治効用は青春病者手淫亂行障礙症及房事過度に因する夢精、早漏、遺精症には本劑を一箇月(三十日分量)乃至二箇月間の服藥を要す服藥量十日乃至二週日にして藥効を奏始し腦脊髓神經の疲勞を快復し血行循環器の運行を良くし生殖器能と快感感覺神經と腦神經との調節を完得するに従ひ順次豫期の服藥日數量を連服するに因り其病根を治斷するの療効を奏す

●心悸亢進(胸内動氣)物事嫌忌(冷汗ぬあせ)耳鳴、頭重症、記憶力、理解力、減衰症 三箇月乃至四箇月間分量を連服する時は病根を治斷し服藥量一箇月(卅日分量)内外にして藥効を奏始し患者自覺的病苦を除去し精神の爽快なるを自然的に覺知する藥効を有す

●男子陰萎症女子無春症輕症は一箇月(卅日)分量を服藥し神經性無感覺勃衰症は二箇月乃至五箇月連服し毎夜就眠の際特製劑注射代用ヨヒン頓用一包宛を併用連服する時は藥効二三週にして勢力英勇の如く奏始し老若も若者の如く元氣旺盛幾夜眠むらす共精力衰ふる事無し粹客諸裙乞ふ泣が如く笑ふが如く、怒るが如く訴ふるが如く起効顯著也

▲注射を嫌忌する患者は散製注射代用ヨヒン頓用 十包入金貳圓八拾五錢 廿包入金 五圓 也 生司丸と併用連服す

●元氣 增進 陰萎特效劑ヨヒン下注射液 五回分量……金五圓五拾錢 十回分量……金九圓五拾錢 試三回分量 金三圓貳拾錢

●注射器具 針三本附消毒藥共、金壹圓貳拾錢 ▲素人自宅に於て注射するには臀部に注射すにて皮膚を揉み揚げ皮下に注射針を挿入し藥液を注入すべし別項五十九頁の注射説明を詳讀實行す

●老衰性萎縮症 には八回乃至十五回の注射にて完全なる効力を奏す ち生司丸を併用連服する時は全身血行を増し皮膚の血色を増し腦神經を快活にして元氣旺盛となり 智能勢力勇者の如く顯著となる事を保證す

▲生司丸院醫局に來り診察無料にてヨヒン注射を請ふ者は一回金一圓貳拾錢

●生司丸院 藥局方 生司丸の特効は幾月連續服用するも何等忌べき副作用を起さず無病の人常夜就眠の際又は早朝起床の際五粒乃至拾粒宛を特藥に服用する時は全身の血行循環を良くし神經の疲勞を來す事無く心神活潑にして勢力を補給し事務に嫌忌する事誓て無し

一鳴呼人と生れて人の父母たるの實を知らずは貧富を問はず不幸の極と言はざるべからず人の父母たるの實を知らんと欲せば須く先づ人間生殖器の作用を知り濫用の弊害を避けざるべからず本書前顯記載せし如く醫學上高老期即ち六十年以上の人は男女共生殖器の効力減弱するは生理上當然なれ共六十年以下にして(女は比較)體格強健の人に生殖器力の減減衰弱したるは是れ即ち疾病的障害を生殖器に及ぼしたるや明瞭なり斯の如く高老期に至らずして生殖器に異狀ある者は速かに之が回復の方向を施さざるべからず何となれば生殖器病は腦病、神經病、等を續發し易ければなり干爰我生司丸院は生殖器病療法に就ては多年の研究實驗を積み根治的新療法を發見し世上の患者永年生殖器病の爲に病辱に呻吟も到底回復の目途なき者と斷念したる者にして本藥の服藥

本劑は獨逸醫學博士スピングール先生の發見最新藥にして強度の勃起衰弱萎陰縮症に注射する時は顯著なる効能を奏す、神經性病的陰縮勃起衰弱症には五回乃至十回の注射にて完全なる効力を奏す

に依り回復の効を奏し歡喜院を辭し去る者陸續絶へず新療法の効力顯著なる世已に之を知る然りと雖も該生殖器病たるや諸他の急發病とは大に異り其經過甚だ緩慢にして原因の關係する處遠きを以て一朝一夕に根治する者に非ず、其藥効を奏するに於て余が多年來數千の患者に實驗したる成績に徴するに其輕症者(夢精、遺精、早漏、勃起衰弱)にて遠因の障害なくして一時軀幹の變動に依り急發したる症と雖も一ヶ月以上の服藥治療日數を要する者なり亦已に腦神經に病的變狀を顯はし病容外見に現れ夢精、遺精、早漏、萎縮の兆候等數回に至り之が數箇月又は數年を経過したる者は二箇月以上五箇月間の(病者容体に依り)服藥日數を要す如何となれば生殖器に病的變狀を來すは假令一時の軀幹變動に依り急發したる症と雖も必ずしも患者全身内部即ち(本書前項の病理原因)に起因するが故なり……生殖器其一部分のみに病的變狀を來す事は醫學上又實地にも無き者なり依て生殖器に多少變狀を來したる事を患者自覺せらるゝ時は全身内部には病的障害を及ぼし居るや必然なり故に普通諸多の病假令ば(腹痛、胸痛、寒胃、等其他總て急に發して苦痛を感ずる症は、急性又は慢性に依り藥効を奏始する事多少其差ありと雖も大抵服藥二三包より二三週間にして藥効顯るゝは實例なるも之に反し生殖器病は本院に於て日時數百名の患者に接し診察するに青年期(十五才)以上頃より壯年期(三十五才)頃に至る實に數年の間諸多の障害即ち(本書前項病理原因)に起因する病性を感患し居るも諸他の病性とは異り目前に病苦を感ぜず其經過甚だ緩慢なるが故に之が治療の方法を怠り放任し居るが爲め其結果として顯發したる生殖器の現狀殆んど不具者に均しき贅物となり其効用恰も全滅したるが如き病容に至

るもの世上幾干か其數を豫知する事を得ず
 以上斯の如き難症に至るも該生殖器病たるや其經過の症狀諸多の病體とは大に異り目前病苦を感ぜず恰も秋期に菓葉の霜露に遇ふて枯るゝが如くなれば患者は不知不識の中に日を経過し終に前述の如き難症に至るもの亦數多あり……斯く難症と雖も苟も之が専門治療の任務たるを以て學と術とに依り治療回復の幸福を得る事を誓證する處なり乞ふ世の患者諸君陸續申込あつて本院長獨得の治方適合藥を謹慎連服し健全無病者となり生殖器の効力も完ふし肉親血族子孫繁殖の榮を永遠に盡さんこと敢て茲に進言す

一人間軀幹中特に寶具と稱し其重大にして人生の最も肝要なるは生殖器なり若し生殖器にして多少の病的變性あらんか靈奇妙用の生殖力を減少するのみならず腦神經の作用に障害を及ぼし諸種の疾患を惹起するに至るべし加之終には處世上最も必要なる人務を盡すの念慮薄弱となり所謂一種の疾病的廢人を造成するの悲境に陥り子孫繁殖の途絶ゆ人として斯る境遇に陥りたらんには萬物の靈長たる活生體が贅物死物に均しき不幸を來すに至る黄金積で山を爲し美衣美食に飽くも亦何の樂しき事かあらんや故に苟くも自己の體軀に病的の感ある事を悟る時は之が未だ輕易の際に於いて全滅快全せしむる事緊要なり若し等閑に放任する時は將來果して如何なる結果を見るか本書前項各項に記述せし病理原因徵候と各自患者の症狀とを相對照して病性の如何を知得せらるべし

一人として最も注意すべきは小兒期(十五歳)より青年(二十五歳前後)に移るの際春情發動するの

頃徒らに男女陰陽部を配び焮衝、疼痛、腐爛等を來して將來生殖器上の機能に大なる障害を及ぼし甚しきは妙齡の頃より頻りに手淫を濫行し房事に耽り男根局部の發育を妨礙し（身体の發育及智能の發達をも害す）又此れが害により腦神經衰弱症を招起し安眠中夢裡に遊び精液を漏出し之が習慣性となり爲に貧血症、杞憂症、を併發し其障害を及ぼし終に夢精、遺精を招來し延て神經衰弱症を惹起するに至る但し本書前顯遺精及び夢精の項に付て其病理原因を熟讀すべし女は子宮内膜炎腫加答兒等を招來するに至る豈戒めざるべけんや

一總ての疾病の發生する事あらば無効の賣藥又は凡醫の治療を受け徒らに治療期を空過する事なかれ番に藥効薄弱なるのみならず却て病勢を増劇せしめ鬱々怏々として日月を勞苦の中に費す生殖器病にありては精液亂出症、夢精、遺精、早漏、勃起衰弱、精虫缺亡、男根萎縮、其他腦神經諸病を續發し女にありては子宮諸病神經病を續發し全く生殖器の効力を失滅するの不幸に至る者也

一婦女子は長じて妙齡に至るや其情慾の發動する事は男子よりも比較的早劇しくして殊に教育無き女子に在りては生殖器を亂用して恰も男子の手淫の如き狀を爲し諸種の疾病を續發して遂に生殖器の効力を失滅するに至る者あり之が一例たる藝娼妓の如く陰部を亂用する者は生殖器其形あるも其實損じて無きが如し之れ即ち人生の大務たる婦女子懷妊して兒子を擧るの榮を得る事甚た至難なるもの最多數なり然れども婦女の性質として其淫亂症なるも或は又淫慾減衰するも陰部に異狀疾患あるも一層慎み深くして之を隱蔽し爲に治療の時期を誤るもの比々皆然り（女子として人の母たる事を得ざるもの世に幾萬あるを知らず）豈注意せざるべけんや

一字改

大正二年十月十五日印 刷
大正二年十月十五日發 行

東京市下谷區上野町一丁目十九番地

發行兼編輯者 丸山萬五郎

東京市京橋區本八丁堀一丁目十五番地

印刷者 秋場熊太郎

東京市京橋區本八丁堀一丁目十五番地

印刷所 つるや印刷部



終